

# 令和5年度第3回筑後川水系渇水調整連絡会

日時：令和6年2月16日（金） 11：00～12：00

場所：福岡第二合同庁舎 2階 共用第2・第3会議室

## 議 事 次 第

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 題

（1）筑後川の水状況について

（2）第2次渇水調整（案）について

（3）その他

4 閉 会

令和5年度第3回筑後川水系渇水調整連絡会 出席者名簿

日時 令和6年2月16日(金)11:00~12:00

場所 福岡第二合同庁舎 2階 共用第2・第3会議室

機関	所属	役職	氏名	委員		随行	事務局
				委員	代理		
九州経済産業局	資源エネルギー環境部	電源開発調整官	野尻 純一郎		○		
	電力・ガス事業課	係員	幸田 恵汰			○	
九州農政局	農村振興部 設計課	水利計画官	川上 浩二		○		
	"	水資源開発係長	又木 徹			○	
水資源機構	筑後川局	次長	篠原 弘幸		○		
	" 施設管理課	課長	武田 久和			○	
	"	主査	橋本 要			○	
	筑後川上流総合管理所	所長	仲道 貴士			○	
	"	管理課長	山本 史朋			○	
	筑後川下流総合管理所	所長	村上 喜昭			○	
福岡県	県土整備部 水資源対策課	参事	白鳥 伸一		○		
	" 水資源対策課	計画係長	中山 隆			○	
	" 水資源対策課	調整係長	飯塚 香織			○	
	農林水産部 農山漁村振興課	企画監	吉田 昌浩		○		
	"	技術主査	苑田 幸助			○	
佐賀県	健康福祉部 生活衛生課	課長	原口 健三		○		
	"	主査	吉原 崇晋			○	
	産業労働部 企業立地課	主幹	小池 庄治		○		
	農林水産部 農山村課	課長	江口 洋久		○		
	農林水産部 水産課	副課長	藤川 健一			○	
	県土整備部	理事	永松 義敬		○		
	" 河川砂防課	技術監	川崎 文仁			○	
	" 河川砂防課 城原川ダム等対策室	室長	山浦 章雄			○	
大分県	農林水産部 農村整備計画課	技師	吉田 岳		○		
	土木建築部 河川課	課長	石和 徹也		○		
九州地方整備局	河川部	部長	浦山 洋一	○			
	"	広域水管理官	上村 雅文	○			
	"	水政調整官	遠藤 孝司				○
	"	建設専門官	内山 尚治				○
	河川部 水政課	課長	三好 辰典				○
	河川部 水政課 行政第四係	係長	近藤 光将				○
	"	国土交通事務官	松下 祐弥				○
	河川部 河川環境課	課長	原田 佐良子				○
	"	課長補佐	藤岡 慎介				○
	河川部 河川環境課 調整係	係長	永野 貴也				○
	"	国土交通技官	白川 翔				○
	筑後川河川事務所 占用調整課	占用調整管理官	日野 裕二				
	筑後川ダム統合管理事務所	所長	甲斐 浩幸				
	"	技術副所長	高山 善光				
" 広域水管理課	課長	宮内 信					
"	管理係長	下山 慎一					
"	計画係長	秋山 陽平					

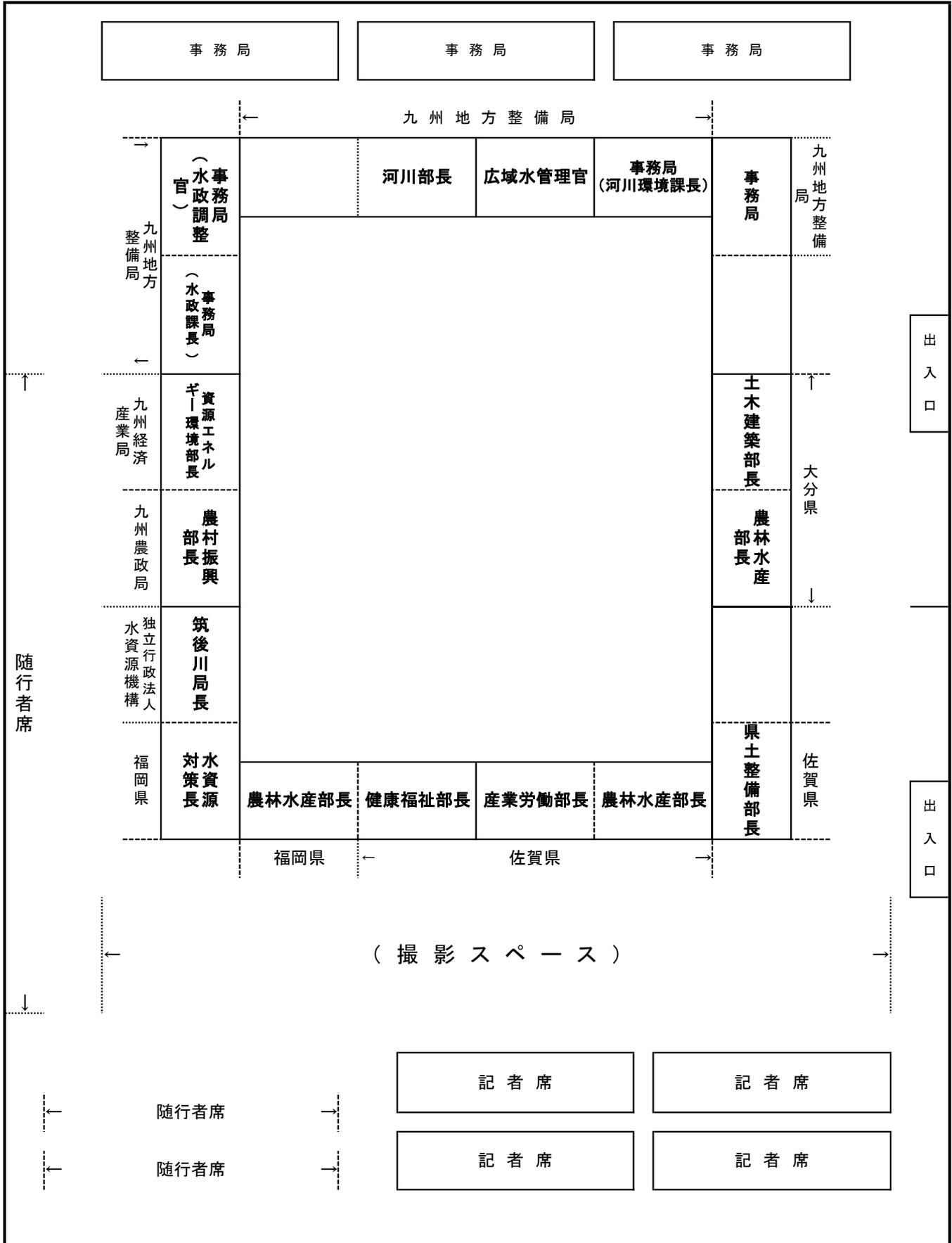
2 11 16 9

44名

令和5年度 第3回筑後川水系濁水調整連絡会 座席表

日時:令和6年2月16日(金) 11:00~12:00

場所:福岡第二合同庁舎 2階 共用第2・第3会議室



# 筑後川水系渇水調整連絡会規約

## 第1章 総 則

### (名 称)

第1条 本会は、筑後川水系渇水調整連絡会（以下「連絡会」という。）と称する。

### (目 的)

第2条 連絡会は関係行政機関等により、筑後川水系に係る関係利水者間の水利用及び渇水への対応等について総合的に連絡協議し、もって水利用の円滑なる運営に資することを目的とする。

## 第2章 協 議 事 項

### (協議事項)

第3条 連絡会は、前条の目的を達成するため次の事項を協議するものとする。

- (1) 水利用の実態に関すること。
- (2) 水利用の運用の方法に関すること。
- (3) 水象等に係る広報に関すること。
- (4) その他連絡会の目的を達成するために必要な事項に関すること。

## 第3章 連 絡 会

### (組 織)

第4条 連絡会は、別表の委員の欄に掲げる者（以下「委員」という。）によって組織する。ただし、会長が必要と認めた者を関係委員と協議し、出席を求めることができるものとする。

2 連絡会の会長は、九州地方整備局長の職にあるものをもって充てる。

3 会長は、連絡会を代表し、会務を掌理する。

4 会長に事故あるときは、九州地方整備局河川部長の職にある者を代行者とするものとする。

### (連絡会の開催)

第5条 連絡会は、定例会を年1回とし、その他会長が必要と認めたとき、若しくは委員の要請があった場合に開催する。

## 第4章 幹事会等

### (幹事会)

第6条 連絡会に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、連絡会の運営に関し、連絡会に提案する議題をあらかじめ整理するとともに、連絡会から委任された事項を処理する。
- 3 幹事会は、別表の幹事の欄に掲げるもの（以下「幹事」という。）によって組織する。ただし、幹事長が必要と認めた者を関係幹事と協議し、出席を求めることができるものとする。
- 4 幹事会に幹事長を置き、九州地方整備局河川部長の職ある者をもって充てる。
- 5 幹事会は、必要に応じて幹事長が招集する。
- 6 幹事会の運営に関し必要な事項は、幹事長が幹事会に諮って定める。
- 7 幹事長に事故あるときは、九州地方整備局広域水管理官の職にある者を代行者とするものとする。

### (事務局)

第7条 連絡会の事務を行なうため、事務局を九州地方整備局河川部に置く。

- 2 事務局に事務局長を置き、九州地方整備局河川部建設専門官の職にある者をもって充てる。

## 第5章 その他

### (任期)

第8条 委員及び幹事並びに事務局長の任期は、その職にある期間とする。

### (規約の改正)

第9条 連絡会は、この規約を改正する必要があると認めるときは、委員の総意によりこれを行なうことができる。

### (雑則)

第10条 この規約に定めるもののほか、連絡会の運営に関し必要な事項は、会長が連絡会に諮って定める。

### 附則

この規約は、昭和60年3月22日から施行する。

### 附則

この規約は、平成元年8月8日から施行する。

**附則**

この規約は、平成5年6月10日から施行する。

**附則**

この規約は、平成7年4月28日から施行する。

**附則**

この規約は、平成13年5月18日から施行する。

**附則**

この規約は、平成20年5月27日から施行する。

**附則**

この規約は、平成22年5月24日から施行する。

**附則**

この規約は、平成23年4月25日から施行する。

**附則**

この規約は、平成24年5月25日から施行する。

**附則**

この規約は、平成25年6月7日から施行する。

**附則**

この規約は、平成28年6月13日から施行する。

**附則**

この規約は、平成29年6月5日から施行する。

**附則**

この規約は、平成30年5月31日から施行する。

**附則**

この規約は、令和元年5月24日から施行する。

**附則**

この規約は、令和2年6月3日から施行する。

附則

この規約は、令和3年5月31日から施行する。

附則

この規約は、令和5年5月29日から施行する。

## 別表

## 構 成 メ ン バ ー

令和5. 5. 29 規約改正

関係行政機関	委 員	幹 事
九州地方整備局	局 長 河川部長 広域水管理官	河川部長 広域水管理官 水政調整官 水政課長 河川環境課長 河川管理課長 筑後川河川事務所長 筑後川ダム統合管理事務所長
九州経済産業局	資源エネルギー環境部長	電力・ガス事業課長
九州農政局	農村振興部長	設計課長 水利計画官
独立行政法人 水資源機構	筑後川局長	筑後川局施設管理課長 筑後川上流総合管理所長 筑後川下流総合管理所長
福 岡 県	水資源対策長 農林水産部長	水資源対策課長 河川管理課長 水道整備室長 農山漁村振興課長 水産振興課長
佐 賀 県	健康福祉部長 産業労働部長 農林水産部長 県土整備部長	生活衛生課長 企業立地課長 水産課長 農山村課長 河川砂防課長 城原川ダム等対策室長
熊 本 県	環境生活部長 農林水産部長 土木部長	環境立県推進課長 農地整備課長 河川課長
大 分 県	農林水産部長 土木建築部長	農村整備計画課長 河川課長

# 筑後川の水状況について

---

筑後川水系渇水調整連絡会  
事務局

令和6年2月

# これまでの渇水調整について①

- 令和5年12月19日の筑後川水系渇水調整連絡会で第1次渇水調整事項を合意。
- 渇水調整の取り組みによって、水源は約600万m<sup>3</sup>分の延命効果があったと推定。

R5/12/19 <第1次渇水調整>

1. 福岡県及び佐賀県は、水道事業者等に対し自主節水及び更なる域内水源の活用について促す。
2. 福岡地区水道企業団、福岡県南広域水道企業団及び佐賀東部水道企業団は、江川ダム、寺内ダム、筑後大堰、合所ダム、大山ダム、小石原川ダムの貯留水を統合し、使用する。
3. 関係機関は、筑後川に係る水の利用者に対して、節水についての啓発活動を行う。

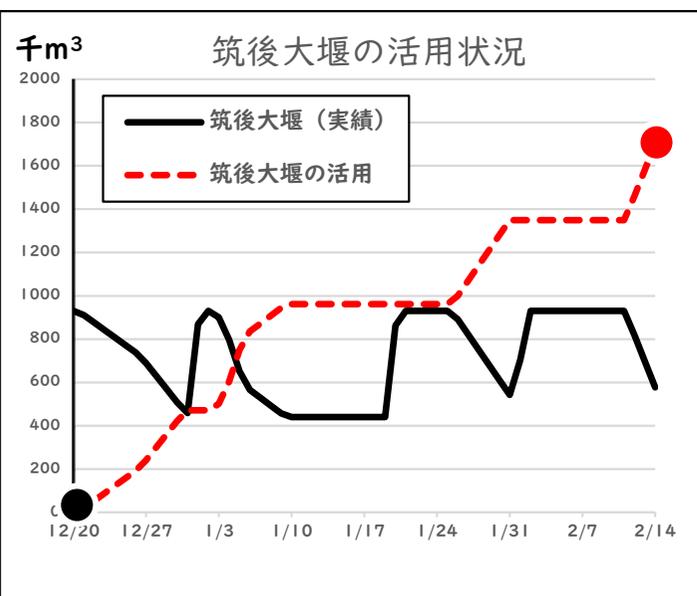
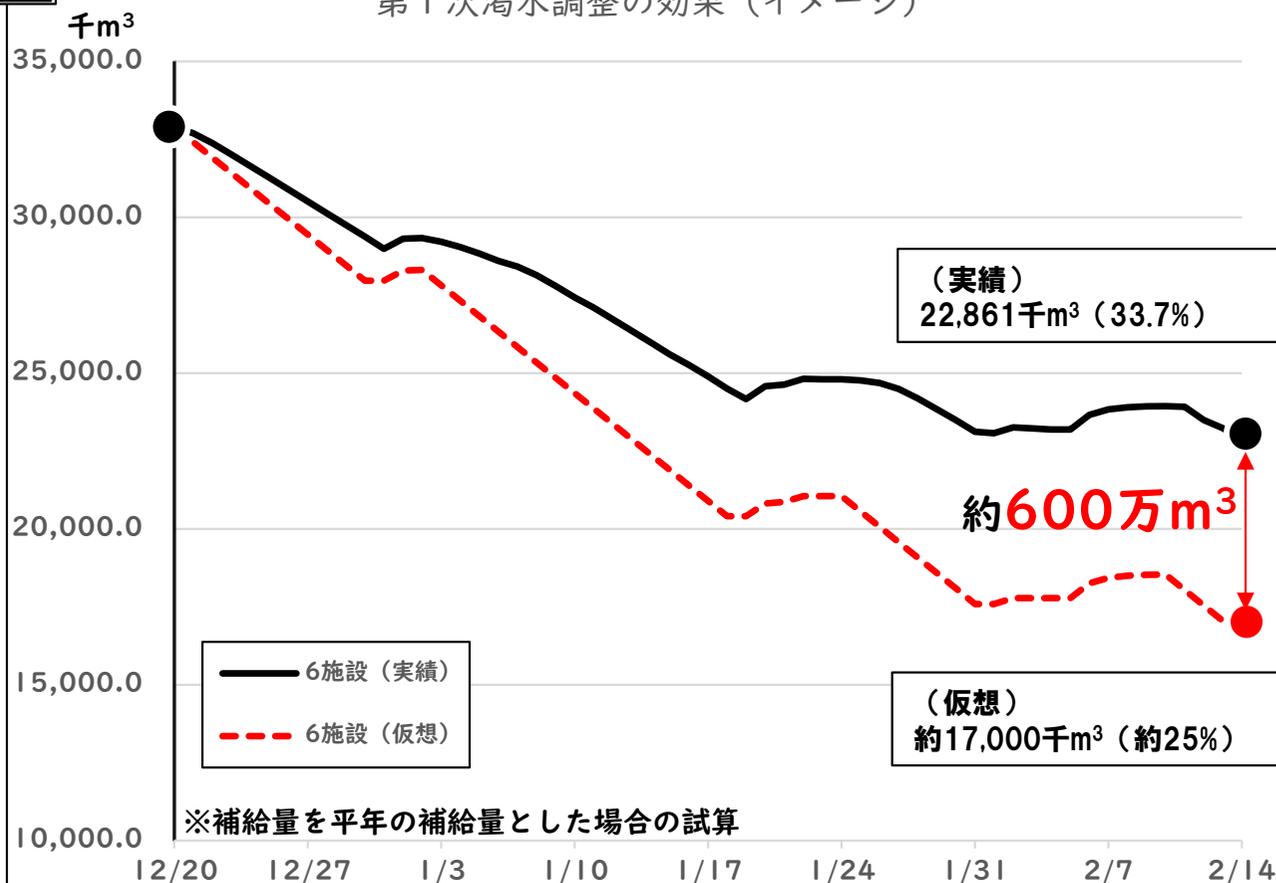


福岡地区水道企業団は  
海水淡水化施設（まみずピア）を  
**フル稼働**

1万m<sup>3</sup>/日 ⇒ **5万m<sup>3</sup>/日**

※10月下旬から段階的に増量。  
12月12日からフル稼働。  
ただし、設備の点検時などを除く

第1次渇水調整の効果（イメージ）



筑後大堰の活用は、  
**約170万m<sup>3</sup>**

※R5/12/20~R6/2/14

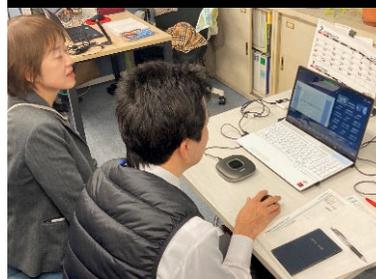
# これまでの渇水調整について②

## <整備局での啓発活動の例>

取組内容	実施時期
①渇水対策本部の設置	R5.12.19設置
②HPを活用した啓発	R5.12.19~
③SNS等を利用した啓発	R6.1.16~ X(旧Twitter)、インスタ
④気象予報士・報道機関へ協力要請	R6.1.19 R6.1.21

### 取組④: 報道機関・気象予報士へ協力要請

#### ▼Zoomを用いての状況説明



事務連絡  
令和6年1月17日

報道機関 各位  
気象予報士 様

筑後川水系渇水調整連絡会事務局  
(国土交通省九州地方整備局 河川環境課長)  
原田

拝啓! 寒冷の候 益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
日頃より、河川防災情報の発信などご理解ご協力頂き、心よりお礼申し上げます。

さて、令和5年8月から筑後川流域では記録的な少雨傾向となっており、これに伴い筑後川流域のダムの貯水量も減少しつづけております。  
この状況を踏まえ、国や県といった関係機関では、断水など市民生活・社会経済活動へ著しい影響が生じないよう、様々な調整など取り組んでいるところです。

渇水の対応については、我々行政機関だけではなく、市民の皆さんにもご協力いただき一丸となって取り組むことが、今後の渇水影響の深刻度を左右することから、「節水の呼びかけ」を関係行政機関にてウェブページやSNSを活用し実施しています。

この度は、更に効果的な節水意識の広報を目的として、報道機関や気象予報士の皆様のご協力をお願いしたくご案内となります。  
(例) ニュース天気予報等で「筑後川では少雨・節水に心がけて」を触れてもらう など

#### ▲文書による協力の要請

### 取組①: 渇水対策本部の設置



▲R5.12.19 本部看板設置

### 取組②:HPを活用した啓発

※HPに『渇水情報』のページを開設。  
これまでの会議資料など渇水情報を集約のほか節水を呼びかけ中。  
また、HPのトップ画面にも『渇水情報』のバナーを新設。



筑後川流域では、本年8月から少雨傾向が続き、特に9月から11月の3ヶ月間の降水量は、江川ダムが管理開始された昭和50年(1975年)以降で最少を記録し、ダムからの補給が継続している状況となり、ダムの貯水率も減少の一途をたどっています。  
このような状況を受けて、今後の総合的な水運用のための渇水調整を行うため、12月19日に筑後川水系渇水調整連絡会の開催しました。

節水へのご協力をよろしく申し上げます。

▲『渇水情報』のページを開設



▲トップ画面に『渇水情報』のバナーを新設

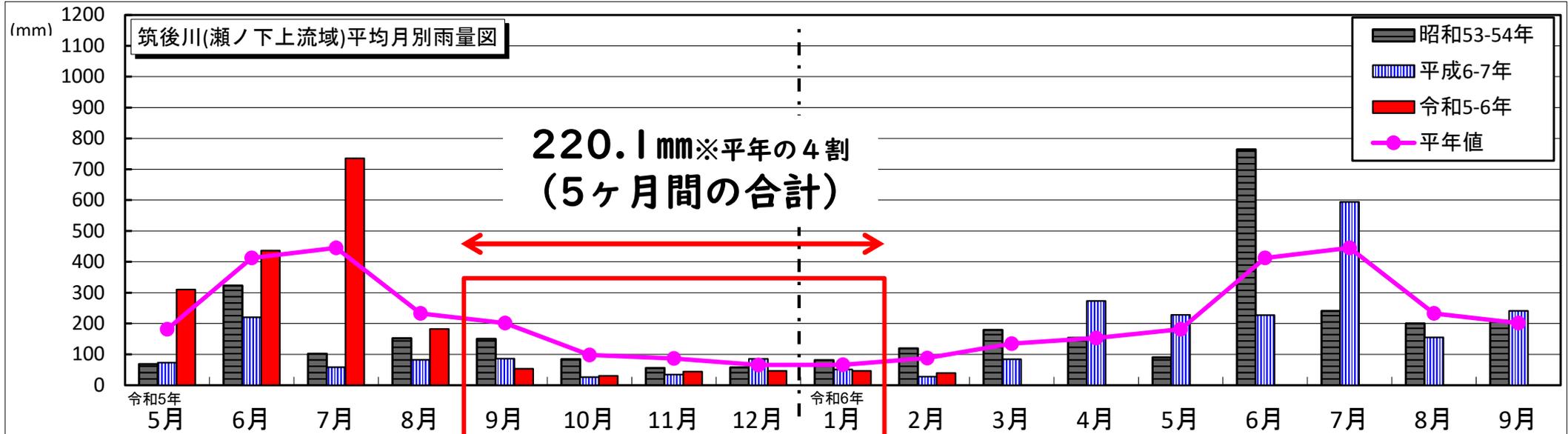
### 取組③: SNS等を利用した啓発



▲R6.1.19 “X”を用いた投稿

# 令和5年-6年の筑後川流域の降水量

- 筑後川の流域平均雨量は、令和5年9月は53.3mmと平年の約27%。
- 令和5年8月から6ヶ月連続で平年値を下回り、令和5年9月から令和6年1月までの合計雨量は平年の4割にとどまった。



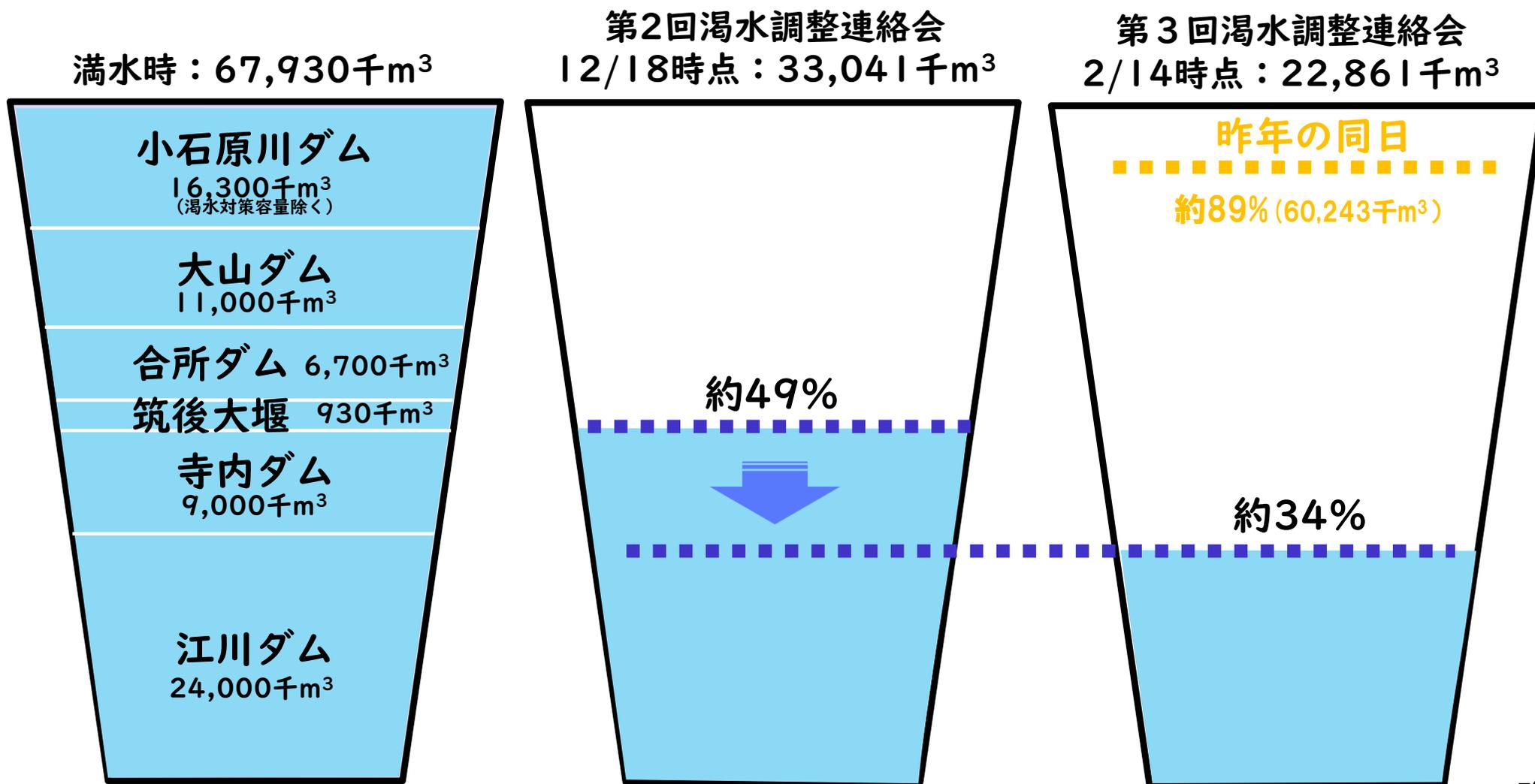
月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平年値	181.5	412.5	445.1	232.6	201.3	98.0	86.6	65.4	66.2	87.9	134.7	152.9	181.5	412.5	445.1	232.6	201.3
昭和52-53年	291.4	515.2	158.3	122.9	92.2	60.5	104.0	63.4	68.0	76.9	78.9	115.1	68.2	323.2	102.0	152.3	150.1
(平年比)	160.6%	124.9%	35.6%	52.8%	45.8%	61.7%	120.1%	96.9%	102.8%	87.5%	58.6%	75.3%	37.6%	78.4%	22.9%	65.5%	74.6%
昭和53-54年	68.2	323.2	102.0	152.3	150.1	84.0	55.6	57.4	81.0	119.2	179.1	153.5	90.3	764.3	240.6	200.2	208.5
(平年比)	37.6%	78.4%	22.9%	65.5%	74.6%	85.7%	64.2%	87.7%	122.4%	135.6%	132.9%	100.4%	49.8%	185.3%	54.1%	86.1%	103.6%
平成5-6年	137.8	816.6	587.8	458.7	351.4	79.1	119.6	68.8	56.6	75.4	68.5	188.7	72.8	220.3	58.3	82.1	86.2
(平年比)	75.9%	198.0%	132.1%	197.2%	174.5%	80.7%	138.1%	105.1%	85.6%	85.8%	50.8%	123.4%	40.1%	53.4%	13.1%	35.3%	42.8%
平成6-7年	72.8	220.3	58.3	82.1	86.2	26.3	34.3	85.5	50.9	27.8	84.3	273.3	228.0	227.3	594.1	155.0	241.1
(平年比)	40.1%	53.4%	13.1%	35.3%	42.8%	26.8%	39.6%	130.6%	76.9%	31.6%	62.6%	178.8%	125.6%	55.1%	133.5%	66.6%	119.8%
平成14-15年	319.0	182.8	254.4	128.0	89.6	81.9	69.5	104.8	62.1	80.6	136.7	236.4	180.0	324.5	570.5	411.1	69.6
(平年比)	175.8%	44.3%	57.2%	55.0%	44.5%	83.5%	80.2%	160.1%	93.9%	91.7%	101.5%	154.6%	99.2%	78.7%	128.2%	176.7%	34.6%
平成22-23年	242.0	347.4	509.3	125.8	158.8	80.6	33.2	114.9	34.5	64.3	67.7	76.0	324.2	695.3	302.4	309.9	186.8
(平年比)	133.4%	84.2%	114.4%	54.1%	78.9%	82.2%	38.3%	175.6%	52.2%	73.1%	50.2%	49.7%	178.7%	168.6%	67.9%	133.2%	92.8%
平成30-令和1年	197.1	368.4	528.1	65.2	327.3	65.6	46.1	74.7	47.6	114.2	129.2	104.7	51.5	182.8	469.5	523.7	129.1
(平年比)	108.6%	89.3%	118.6%	28.0%	162.6%	66.9%	53.2%	114.1%	72.0%	129.9%	95.9%	68.5%	28.4%	44.3%	105.5%	225.1%	64.1%
令和5-6年	310.3	436.4	735.3	182.3	53.3	30.6	43.8	46.3	46.1	39.5							0.0%
(平年比)	171.0%	105.8%	165.2%	78.4%	26.5%	31.2%	50.6%	70.7%	69.7%	44.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※平年値は、1991~2020年(30年間)の平均値。令和6年2月14日0時時点

# 筑後川の水源の状況①

- ダムの完成や渇水調整などにより、平成6年渇水以降は断水など市民生活・社会経済活動への影響は回避。
- 現在の筑後川主要6施設の合計貯水量は、これまでの少雨により満水時に対し3割程度まで落ち込み、その水量はダム1個分※1まで減少。
- 流域の水源状況からも、警戒感が高まってきている。

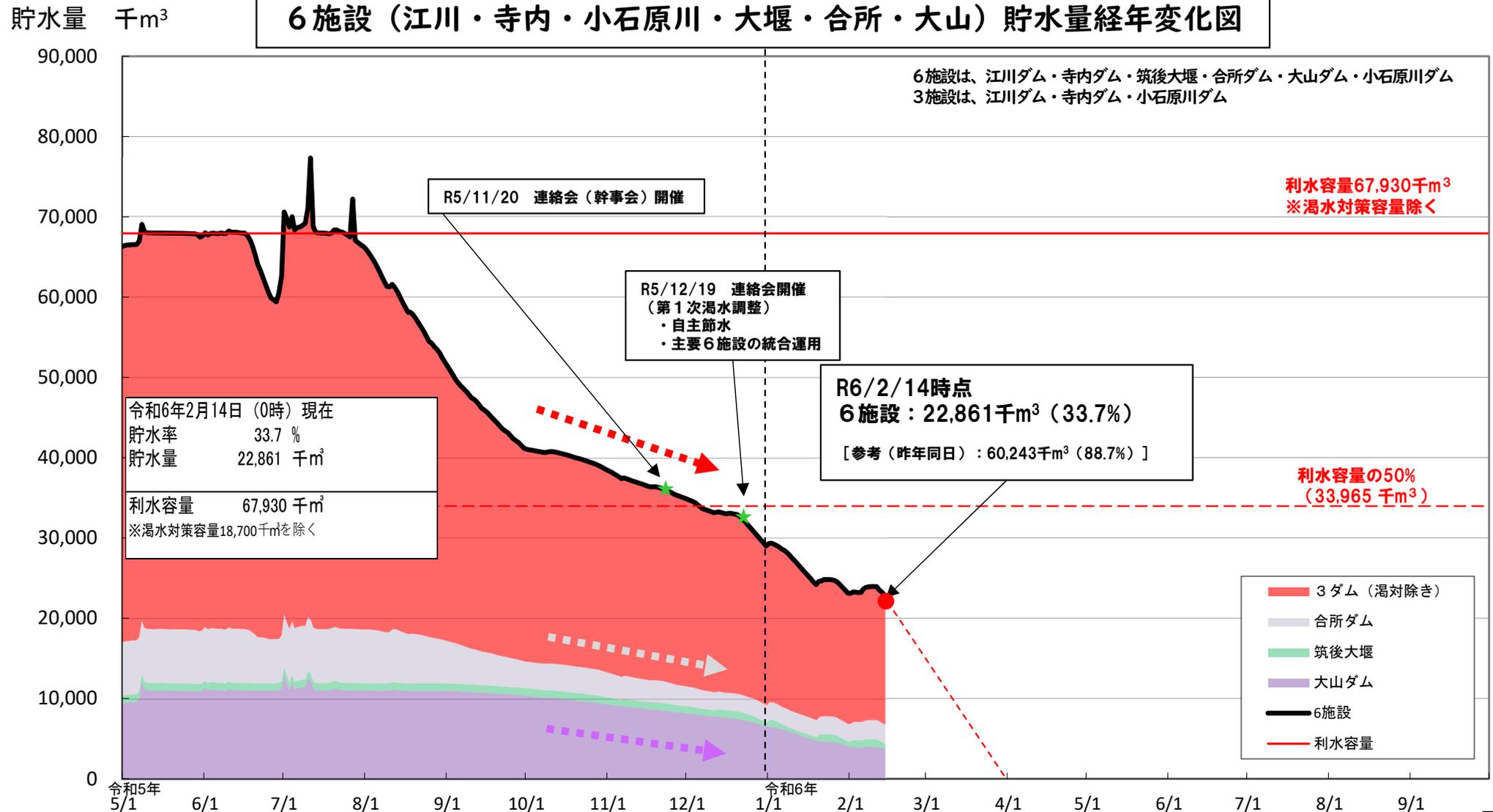
※1:ダム1個分とは、江川ダム(24,000千m<sup>3</sup>)の利水容量の合計を指す



# 筑後川の水源の状況②

- 筑後川の主要6施設の合計貯水量（渇水対策容量を除く）は、まとまった雨が無ければ、約2ヶ月後に枯渇する恐れ。
- 危機的状況を回避するためには、更なる渇水対策が必要な状況。

6施設（江川・寺内・小石原川・大堰・合所・大山）貯水量経年変化図



## (1) 筑後川の水状況について

### [各機関報告資料]

- ・ 福岡県資料 P1～P2
- ・ 佐賀県資料 P3～P4
- ・ 大分県資料 P5

令和6年2月16日

福岡県主要ダム貯水状況

令和6年

(単位:千m3、%)

ダム名	設計貯水量		2月9日		2月11日		2月13日		2月15日	
	有効貯水容量	利水容量	貯水量	貯水率	貯水量	貯水率	貯水量	貯水率	貯水量	貯水率
江川	24,000	24,000	12,620	52.6	12,530	52.2	12,222	50.9	11,840	49.3
寺内	16,000	9,000	3,598	40.0	3,605	40.1	3,584	39.8	3,555	39.5
合所	6,700	6,700	2,386	35.6	2,405	35.9	2,401	35.8	2,384	35.6
大山	18,000	11,000	4,057	36.9	3,998	36.3	3,857	35.1	3,712	33.7
小石原川	39,100	35,000	18,614	53.2	18,629	53.2	18,645	53.3	18,645	53.3
日向神	23,900	* 21,000	5,750	27.4	5,678	27.0	5,498	26.2	5,323	25.3
山神	2,800	1,130	551	48.8	552	48.8	548	48.5	544	48.1
南畑	5,560	* 5,120	2,539	49.6	2,523	49.3	2,503	48.9	2,525	49.3
脊振	4,401	3,979	2,704	68.0	2,673	67.2	2,643	66.4	2,628	66.0
猪野	4,910	3,650	2,501	68.5	2,495	68.4	2,486	68.1	2,478	67.9
長谷	4,850	4,850	4,580	94.4	4,557	94.0	4,511	93.0	4,467	92.1
鳴淵	4,160	2,300	2,095	91.1	2,096	91.1	2,095	91.1	2,093	91.0
曲淵	2,368	2,368	1,540	65.0	1,555	65.7	1,532	64.7	1,530	64.6
瑞梅寺	2,270	1,220	1,184	97.0	1,181	96.8	1,174	96.2	1,173	96.1
久原	1,460	1,460	1,392	95.3	1,392	95.3	1,392	95.3	1,392	95.3
五ヶ山	39,700	31,700	17,434	55.0	17,343	54.7	17,228	54.3	17,039	53.8
ます淵	13,200	11,350	9,436	83.1	9,467	83.4	9,488	83.6	9,493	83.6
油木	17,450	* 16,450	3,727	22.7	3,732	22.7	3,727	22.7	3,732	22.7
力丸	12,500	* 12,500	6,847	54.8	6,913	55.3	6,964	55.7	7,005	56.0
陣屋	2,450	1,650	1,599	96.9	1,599	96.9	1,599	96.9	1,599	96.9
伊良原	27,500	18,500	14,359	77.6	14,359	77.6	14,350	77.6	14,325	77.4
21ダム合計	273,279	224,927	119,513	53.1	119,282	53.0	118,447	52.7	117,482	52.2
							直近20年平均 (2月11日時点)		99,864	68.6

令和5年2月13日	
貯水量	貯水率
20,747	86.4
5,886	65.4
6,093	90.9
7,878	71.6
18,559	53.0
8,478	40.4
900	79.6
3,976	77.7
2,855	71.8
1,364	37.4
4,209	86.8
1,543	67.1
1,451	61.3
1,174	96.2
768	52.6
10,265	32.4
8,941	78.8
9,916	60.3
7,108	56.9
1,347	81.6
17,937	97.0
141,395	62.9

試験湛水中

※ 貯水率=貯水量÷利水容量×100 (利水容量とは生活用水、工業用水、農業用水等に利用する水を貯める容量)  
(有効貯水量は、利水容量と洪水調節容量を合わせた量)

\* 印ダムの、洪水調節容量を確保するため、梅雨期、台風期に利水容量が減少します。変更前後では、貯水量にかかわらず貯水率が大きく変化します。

- 日向神ダム (6/1-7/31) 7,300千m3、(8/1-9/30) 18,300千m3、(10/1-5/31) 21,000千m3
- 南畑ダム (6/1-10/20) 3,650千m3、(10/21-5/31) 5,120千m3
- 油木ダム (6/1-10/20) 14,450千m3、(10/21-5/31) 16,450千m3
- 力丸ダム (6/1-7/31) 8,900千m3、(8/1-9/30) 10,800千m3、(10/1-5/31) 12,500千m3

令和3年10月16日より、3ダム(江川・寺内・小石原川)の利水容量を3ダム全体の貯水量で管理しています。

朝倉3ダム合計 (江川、寺内、小石原川)	(R6. 2. 13時点) 34,451千m <sup>3</sup>	(R5. 2. 13時点) 45,192千m <sup>3</sup>
-------------------------	--	--

資料3 (福岡県資料)

# 節水に関する啓発活動の実施状況

## 県の実施状況

○県ホームページやSNS、新聞広告、広報誌、関係機関への節水協力依頼による啓発

福岡県 Fukuoka Prefecture

テーマから探す 目的から探す 組織から探す Google 検索

トップページ > 環境・まちづくり・県土づくり > 上下水道 > 上下水道・浄化槽 > 節水のお願い

### 節水のお願い

更新日:2023年12月19日更新

福岡県からのお願い ~節水にご協力ください~

節水にご協力をお願いします。

8月以降少雨傾向が続き、現在ダムの貯水率が徐々に低下しています。日頃の水の使い方を見つめ直し、職場や家庭で節水を心がけましょう。水は限りある大切な資源です。大切に使いましょう。

(節水6箇条)

- 蛇口はこまめに閉める。
- 食器の汚れはあらかじめ活としてから洗う。(古新聞や古布などを使いましょう！)
- 洗濯は「注水すすぎ」ではなく「ためすすぎ」・「まとめ洗い」。
- お風呂の残り湯は掃除・洗濯・庭の散水などに利用する。
- 洗車はバケツの水で行う。
- トイレは1回で流す。

みなさん、節水6か条はいくつできていますか？

この他にも自分に合う節水方法を見つけて実践してみましょう。

福岡県庁 @Pref\_Fukuoka · 26分

\節水にご協力ください！

福岡地域・筑後地域の水源であるダムの水が少なくなっています。水は限りある貴重な資源です。大切に使いましょう。職場や家庭で自分に合う節水方法を見つけて節水を心がけましょう。

詳しくはこちら▼  
pref.fukuoka.lg.jp/contents/damuc...

上手に使って 上手に節水!

福岡県

<県公式>

<県ホームページ>

## 利水者の実施状況

○ホームページやSNS、広報誌による啓発

福岡市水道局

福岡市水道局 Fukuoka City Water Bureau

【お願い】節水へのご協力をお願いします

福岡市の水道水の約3分の1は筑後川からの水によって供給されています。しかし、筑後川流域では、本年8月から少雨傾向が続き、特に9月から11月の降雨量は、往年ダムが平均貯水率を維持する期間よりも少なく、筑後川の各ダムでは貯水率が低下している状況です。今後も少雨傾向が続けば、ダム貯水率も一層低い状況になることが想定されますので、福岡市市民の皆様には、限りある貴重な資源の有効利用のため、**より一層の節水にご協力**をお願いします。

より節水を促すために、福岡市市民の皆様へ、節水のコツを伝えています。

水は大切に使いましょう。

福岡県南広域水道企業団

福岡県南広域水道企業団

節水へのご協力をお願いします

筑後川流域では、本年8月から少雨傾向が続き、現在ダムの貯水率が徐々に低下しています。日頃の水の使い方を見つめ直し、職場や家庭で節水を心がけましょう。水は限りある大切な資源です。大切に使いましょう。

水は大切に使いましょう。

朝倉市

朝倉市

あさくら public relations of Asakura

12月

あさくらの未来を 描くのは私たちが!

家庭での節水方法(節水は、家計を助けます)

■お風呂で

- お風呂の張りすぎ・沸かしすぎに注意する。
- 洗濯のとき、シャワーの水を流したままにしない。

■洗濯で

- まとめ洗いをして、洗濯の回数を減らす。
- お風呂の残り湯を利用する。

■炊事で

- 食材や食器を洗うとき、水を流したままにしない。
- 油污れの目立つ食器は、紙で油分を拭き取ってから洗う。

■洗面所やトイレで

- 水洗トイレの大小レバーを使い分ける。
- 歯磨きや洗顔のとき、水を流したままにしない。

福岡地区水道企業団

福岡地区水道企業団 Fukuoka District Waterworks Agency

筑後川の水を利用されている皆様へ『節水』についてのお願い (令和5年12月19日)

福岡県南側の水源地の約3分の1は筑後川からの水によって供給されています。しかし、筑後川流域では、本年8月から少雨傾向が続き、特に9月から11月の降雨量は、往年ダムが平均貯水率を維持する期間よりも少なく、筑後川の各ダムでは貯水率が低下している状況です。今後も少雨傾向が続けば、ダム貯水率も一層低い状況になることが想定されますので、福岡市市民の皆様には、限りある貴重な資源の有効利用のため、**より一層の節水にご協力**をお願いします。

身近な節水を お願いいたします!

- 風呂**
  - お風呂の張りすぎ・沸かしすぎに注意する。
  - 洗濯のとき、シャワーの水を流したままにしない。
- 洗濯**
  - まとめ洗いをして、洗濯の回数を減らす。
  - お風呂の残り湯を利用する。
- 炊事**
  - 食材や食器を洗うとき、水を流したままにしない。
  - 油污れの目立つ食器は、紙で油分を拭き取ってから洗う。
- 洗面所やトイレ**
  - 水洗トイレの大小レバーを使い分ける。
  - 歯磨きや洗顔のとき、水を流したままにしない。

令和6年2月13日 現在

## 佐賀県内ダムの貯水状況

	現況 貯水量 (千 $\text{m}^3$ )	計画 貯水容量 (千 $\text{m}^3$ )	貯水率 (%)
嘉瀬川ダム (国管理)	43,508	50,500	86.2%
厳木ダム (国管理)	5,404	5,600	96.5%
本部ダム (武雄市)	563	750	75.1%
矢筈ダム (武雄市)	716	870	82.3%
岩屋川内ダム (嬉野市)	107	630	17.0%
深浦ダム (白石町)	0	20	0.0%
横竹ダム (嬉野市)	1,881	1,900	99.0%
中木庭ダム (鹿島市)	1,956	2,800	69.9%
竜門ダム (有田町)	609	970	62.8%
都川内ダム (伊万里市)	837	1,000	83.7%
平木場ダム (唐津市)	360	424	84.9%
伊岐佐ダム (唐津市)	147	160	91.9%
有田ダム (有田町)	322	780	41.2%
狩立・日の峯ダム (武雄市)	519	1,040	49.9%
井手口川ダム (伊万里市)	923	1,260	73.3%
<b>県管理 13ダム計</b>	<b>8,940</b>	<b>12,604</b>	<b>70.9%</b>

※1 岩屋川内ダム (嬉野市) は 水質改善対策 (アオコ) のため低貯水となっている。

# 節水に関する啓発活動

## 佐賀東部水道企業団の状況

○ホームページでの広報、関係市町広報誌への節水掲載依頼、平時から浄水ろ過で使用する水の少量化や再利用に取り組んでいる。さらに3月上旬、企業団広報誌(節水)を全戸配布予定。

### 水道をご利用の皆さまへ

筑後川流域で昨年8月から少雨傾向が続いているため、水源ダムの江川・寺内ダムの貯水率が低下しています。

水道をご利用の皆さまには、節水へのご協力をお願いいたします。

### 簡単な節水のポイント

## 県の状況

○県ホームページで節水の啓発

8月から少雨傾向が続いています。節水にご協力をお願いします。

県内では、令和5年8月から少雨傾向が続いています。水は貴重な生活資源ですので、節水を心がけ大切に使いましょう。

### 【家庭での節水のポイント】

- 1 家庭の中で最も多く水を使うのは風呂ですが、風呂をわかすときは適温適量を心がけましょう。また、入浴後の残り湯も、洗たく、ふき掃除、散水などに利用すると節水になります。
- 2 水洗トイレは、大小レバーの使い分けをしましょう。
- 3 油よごれのひどい食器などは、あらかじめ紙や布でふき取り、他のものといっしょにため洗いをしましょう。また、蛇口はこまめな開け閉めを心がけましょう。
- 4 歯磨きでは、はじめから終わりまで水を出しっぱなしにせず、蛇口のこまめな開け閉めを心がけましょう。口をすすぐ時にも、水を出しっぱなしにせず、コップを使うと節水になります。
- 5 洗車はバケツに水をくんで行くと、ホースを使った流し洗いより節水になります。また、風呂の残り湯なども大いに利用しましょう。
- 6 シャワーも風呂との使い分けを考え、また、こまめに蛇口の開け閉めをするなどして使うと節水になります。



ダム諸量現況表 2024年02月14日24時00分 現在

観測所によって、10分または1時間の間隔で観測していますので最新観測時刻にご注意下さい。  
局名をクリックするとダム横断面図が表示されます。

管理者名	河川名	局名	所在地	最新観測時刻	貯水位	流入量	貯水量	貯水率	放流量
					[m]	[m <sup>3</sup> /s]	[10 <sup>3</sup> ×m <sup>3</sup> ]	[%]	[m <sup>3</sup> /s]
国東土木	横手川	行入ダム	国東市国東町横手	2024 02/14 24:00	→ 124.64	→ 0.020	→ 500	→ 65.7	→ 0.020
国東土木	安岐川	安岐ダム	国東市安岐町矢川	2024 02/14 24:00	→ 153.78	→ 4.770	→ 942	→ 100.0	→ 0.230
臼杵土木	青江川	青江ダム	津久見市大字上青江	2024 02/14 24:00	→ 64.06	→ 0.018	→ 454	→ 100.0	→ 0.021
臼杵土木	垣河内川	野津ダム	臼杵市野津町垣河内	2024 02/14 24:00	→ 238.04	→ 0.040	→ 126	→ 100.0	→ 0.040
佐伯土木	床木川	床木ダム	佐伯市弥生床木	2024 02/14 24:00	→ 88.54	→ 0.040	→ 493	→ 100.0	→ 0.030
佐伯土木	壱田川	黒沢ダム	佐伯市青山	2024 02/14 24:00	→ 95.32	→ 0.260	→ 754	→ 100.0	→ 0.240
竹田土木	稲葉川	稲葉ダム	竹田市久住町白丹	2024 02/14 24:00	→ 437.81	→ 1.600	→ 688	→ 100.3	↑ 1.054
竹田土木	玉来川	玉来ダム	竹田市大字志土知	2024 02/14 24:00	→ 350.41	→ 2.030	→ 1	→ 0.0	→ 2.030
企業局	北川	北川ダム	佐伯市宇目南田原	2024 02/14 24:00	→ 147.46	→ 0.530	→ 12289	→ 35.4	→ 0.530
企業局	芹川	芹川ダム	竹田市直入町下田北	2024 02/14 24:00	→ 332.41	→ 2.950	→ 16322	→ 73.2	→ 3.880

1/1

凡例	
■	サーチャージ水位超過
***	欠測
---	無効

	R6.2.15 0:00時点 貯水率 (%)	R5.2.15 0:00時点 貯水率 (%)	前年比 (R5年度-R4年度)	R5.12.18 0:00時点 貯水率 (%)	(R6.2.15) - (R5.12.18)
行入ダム	65.7	100	-34.3	56.1	9.6
安岐ダム	100	100	0.0	100	0.0
青江ダム	100	100	0.0	100	0.0
野津ダム	100	100	0.0	100	0.0
床木ダム	100	100	0.0	100	0.0
黒沢ダム	100	100	0.0	100	0.0
稲葉ダム	100	100	0.0	100	0.0
玉来ダム	0	0.0	0.0	0.0	0.0
北川ダム	35.4	61.5	-26.1	40.1	-4.7
芹川ダム	73.2	88.0	-14.8	76.5	-3.3

令和6年2月16日

## 令和5年度 筑後川水系渇水調整連絡会 第2次渇水調整（案）

### I 渇水調整の背景

筑後川流域では月間降水量が6ヶ月連続で平年値を下回っており、特に令和5年9月から令和6年1月までの合計雨量は220.1mmとなり、平年の4割程度にとどまっている。

令和5年12月19日の第1次渇水調整に取り組んだことや一時的な降雨によって、筑後川の主要6施設による水源は約600万 $\text{m}^3$ の延命効果があった。しかし、ダムの貯水量は未だ減少の一途をたどっており、令和6年2月14日時点で主要6施設の合計貯水量は3割程度まで落ち込んだ。

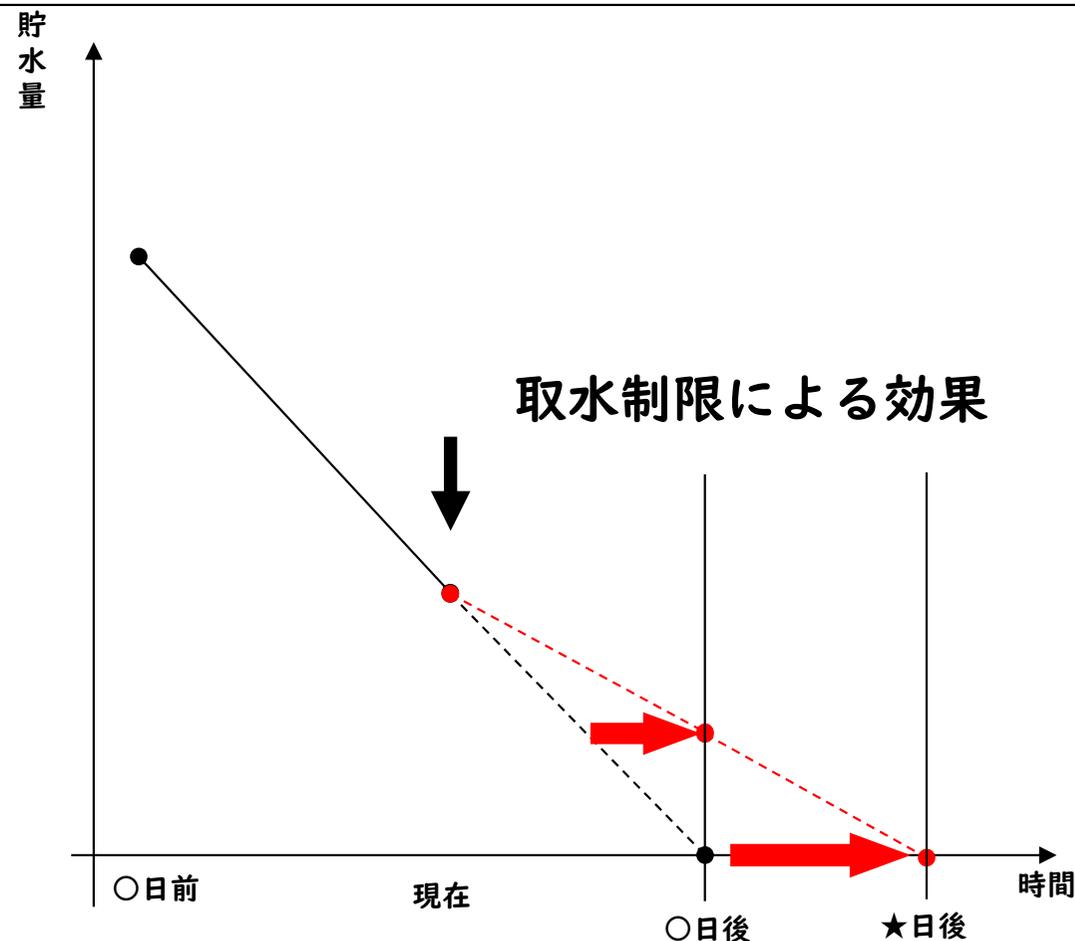
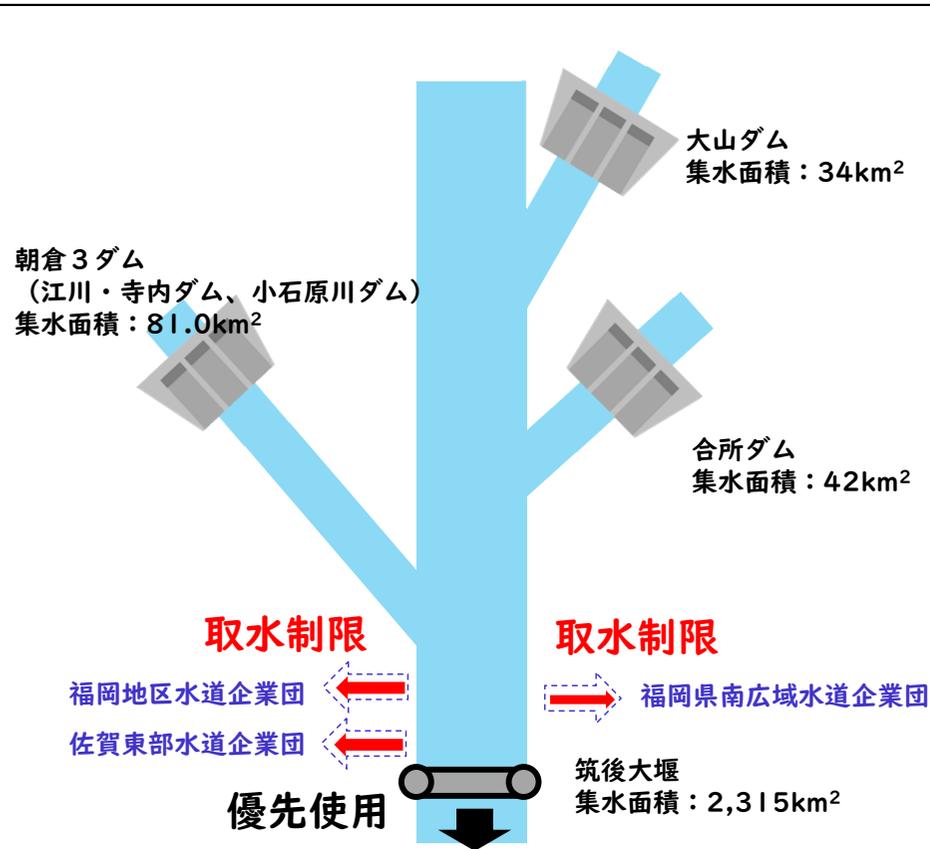
この結果、まとまった降雨が無くダムからの補給が続く場合、約2ヶ月間で渇水対策容量を除く利水容量のすべてが無くなることが予想され、2ヶ月後にダムからの補給がなくなり給水制限に至る恐れを回避するためには、更なる渇水対策の強化が必要な状況となった。

このような状況を受けて、福岡県及び佐賀県から筑後川水系渇水調整連絡会の開催要請がなされ、以下のとおり各水利使用者間の総合的な水運用のため、第1次渇水調整に引き続き、今回、第2次渇水調整を行うものである。

### II 渇水調整事項（案）

1. 6施設の貯留水延命のため、2月17日から福岡地区水道企業団は10%、福岡県南広域水道企業団及び佐賀東部水道企業団は3%の取水制限を実施する。
2. 6施設の貯留水延命のため、福岡地区水道企業団は、2月17日から山口調整池の貯留水40万 $\text{m}^3$ を使用し、筑後川からの取水量を極力少なくするものとする。
3. 関係機関は、筑後川に係る水の利用者に対して、なお一層の節水を促すよう啓発活動を強化する。
4. 異常な降雨状況が続いていることを受け、小石原川ダムの渇水対策容量の活用検討に着手する。

○まとまった降雨が無く水源（筑後川水系の主要6施設）からの補給が続く場合、利水容量のすべてが無くなることを予想されたため、筑後川からの取水量を制限することで、水源の延命を図る。

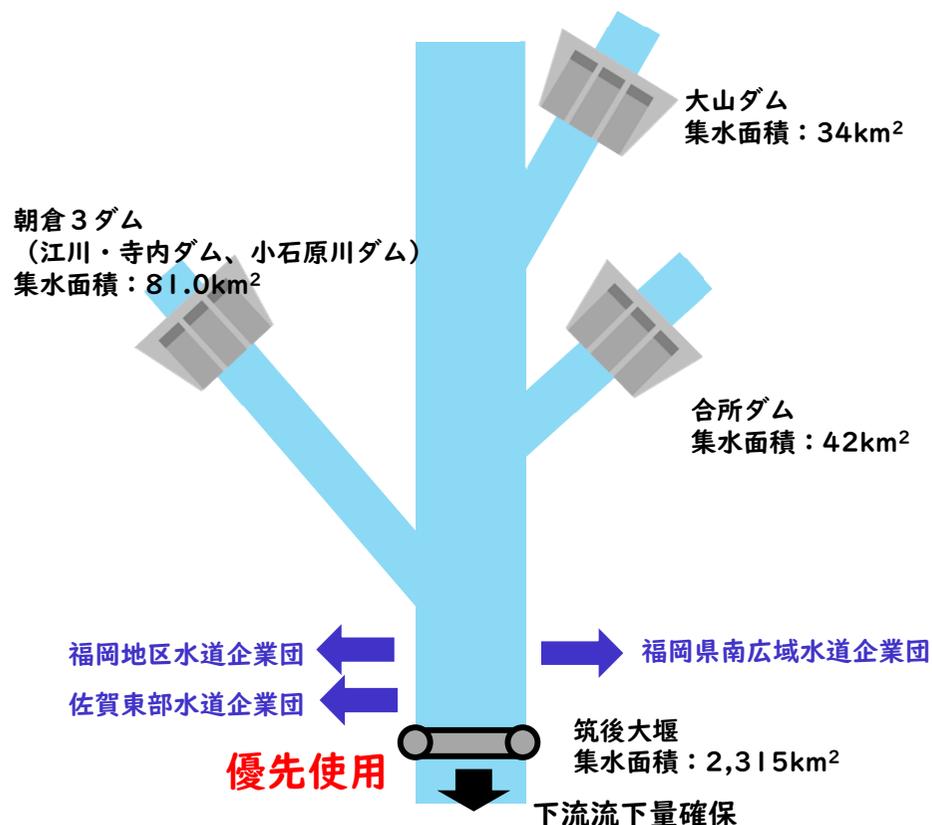


## 第2次渇水調整（案）

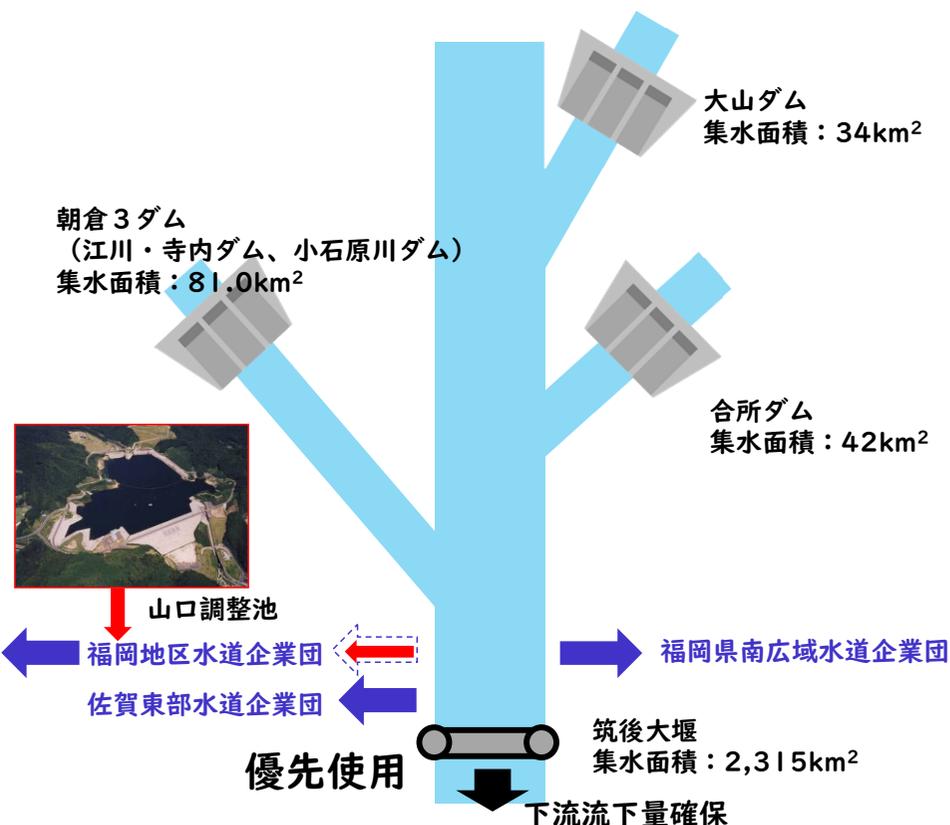
6施設の貯留水延命のため、福岡地区水道企業団は10%、福岡県南広域水道企業団及び佐賀東部水道企業団は3%の取水制限を実施する。

○ 第1次渇水調整に加え、導水トラブル等に備えた“山口調整池”の貯留水の一部を活用することで、筑後川からの取水量を更に抑えることができ、筑後川全体の水源を延命することが可能となる。

## ■ 第1次渇水調整による施設の運用



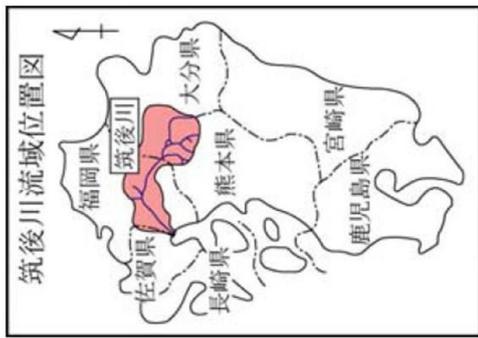
## ■ 第2次渇水調整後の施設の運用



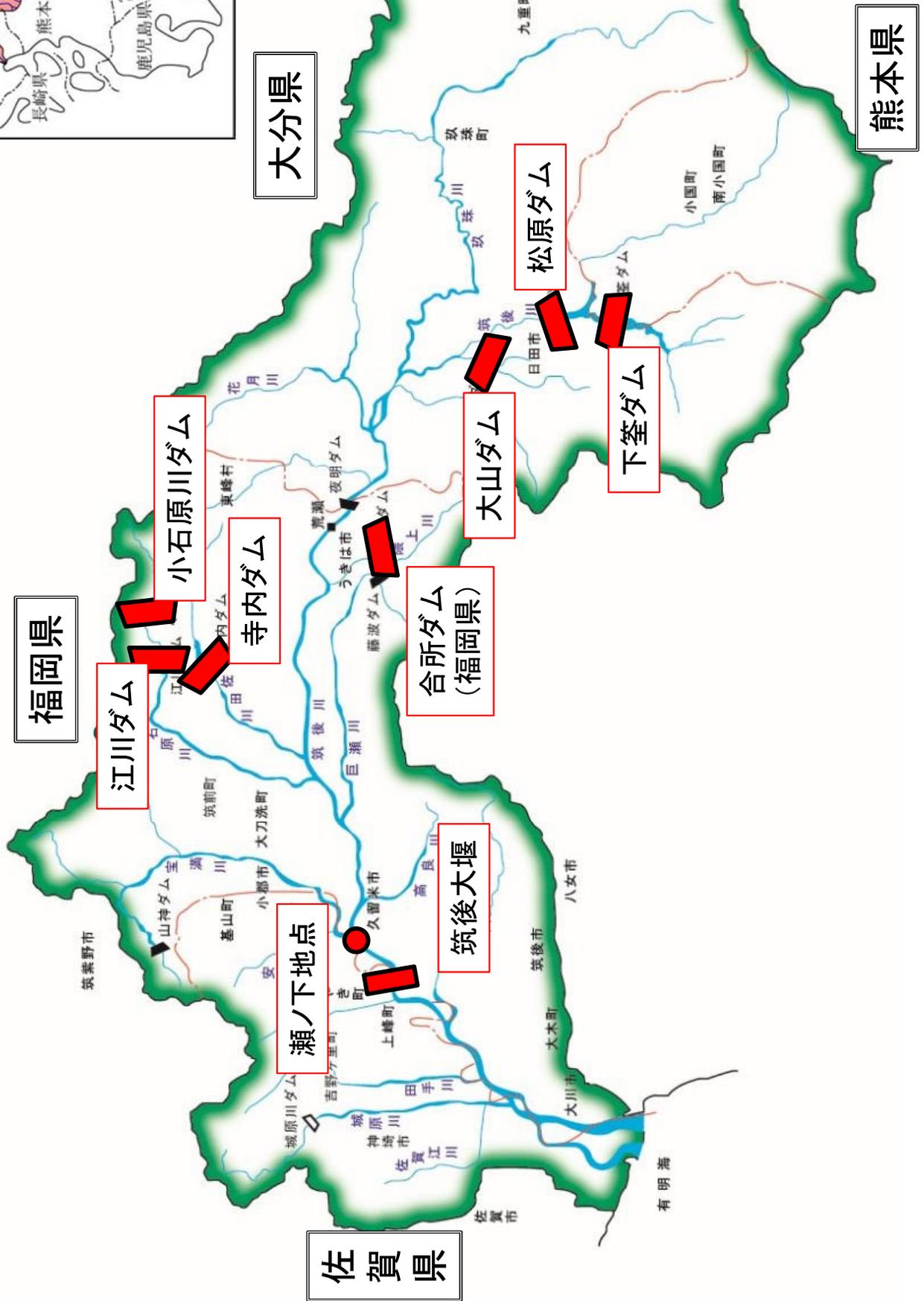
## 第2次渇水調整（案）

6施設の貯留水延命のため、福岡地区水道企業団は、山口調整池の貯留水40万m<sup>3</sup>を使用し、筑後川からの取水量を極力少なくするものとする。

# 筑後川流域



参考①



本資料の数値は、速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

2024年2月14日

前日&lt;

&gt;翌日

最新より二週間前までの履歴を見ることができます。

## ダムの貯水量

施設名	管理者	利水容量 (千m <sup>3</sup> )	貯水量 (千m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	備考
松原・下笠ダム (0時現在)		99,400 (99,400)	35,364	35.6 (35.6)	前日からの増減 -710千m <sup>3</sup>
松原ダム	国土交通省	47,100 (47,100)	17,638	37.4 (37.4)	-26千m <sup>3</sup>
下笠ダム	国土交通省	52,300 (52,300)	17,726	33.9 (33.9)	-684千m <sup>3</sup>
江川・寺内ダム 小石原川ダム (0時現在)		68,000	34,335	50.5	-169千m <sup>3</sup>
江川ダム	水資源機構	24,000	12,117	50.5	-163千m <sup>3</sup>
寺内ダム	水資源機構	9,000	3,573	39.7	-14千m <sup>3</sup>
小石原川ダム	水資源機構	35,000	18,645	53.3	8千m <sup>3</sup>
大山ダム (0時現在)		11,000	3,813	34.7	前日からの増減 -70千m <sup>3</sup>
大山ダム	水資源機構	11,000	3,813	34.7	-70千m <sup>3</sup>

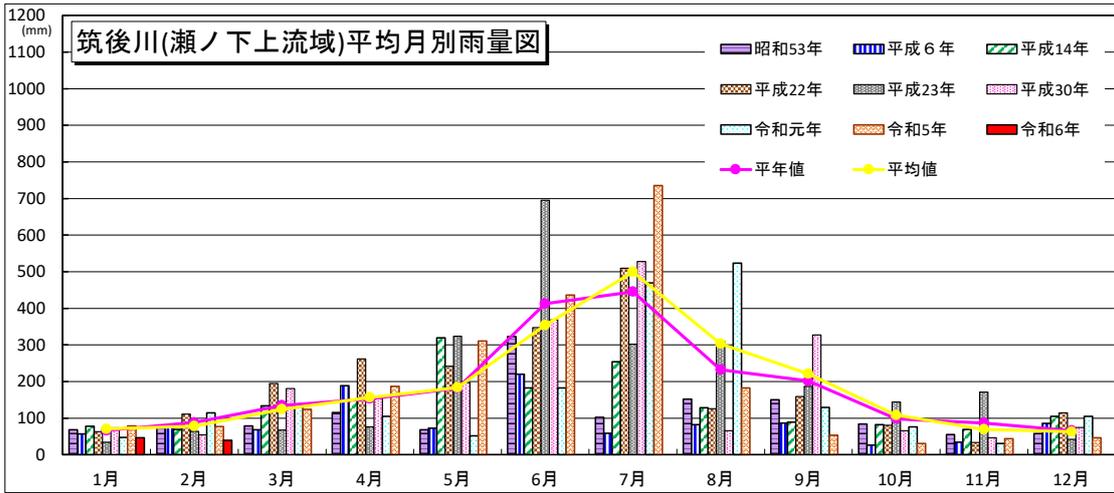
注) 利水容量の下段の ( ) 内は、有効貯水容量です。

貯水率の下段の ( ) 内は、有効貯水容量に対する貯水率です。

河川流量(m<sup>3</sup>/秒)

地点名	前日の日平均	当日の9時
瀬ノ下	43.9	43.9
大堰直下	44.9	

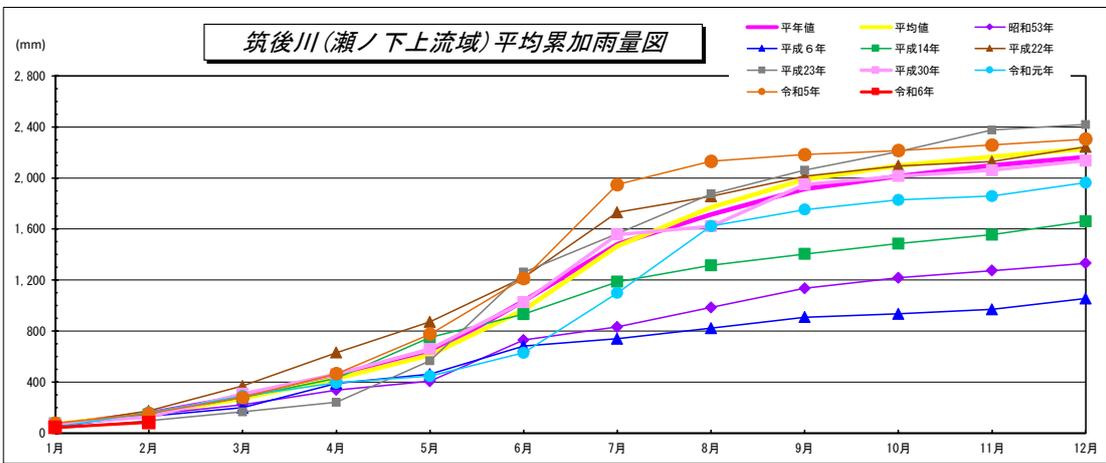
筑後川水系 瀬ノ下上流域平均雨量



単位：ミリ

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平年値	66.2	87.9	134.7	152.9	181.5	412.5	445.1	232.6	201.3	98.0	86.6	65.4	2,164.8
平均値	70.5	77.8	124.3	156.2	183.2	354.0	498.9	302.8	221.0	108.0	69.1	62.5	2,228.2
昭和53年	68.0	76.9	78.9	115.1	68.2	323.2	102.0	152.3	150.1	84.0	55.6	57.4	1,331.7
(平年比)	102.8%	87.5%	58.6%	75.3%	37.6%	78.4%	22.9%	65.5%	74.6%	85.7%	64.2%	87.7%	61.5%
平成6年	56.6	75.4	68.5	188.7	72.8	220.3	58.3	82.1	86.2	26.3	34.3	85.5	1,055.0
(平年比)	85.6%	85.8%	50.8%	123.4%	40.1%	53.4%	13.1%	35.3%	42.8%	26.8%	39.6%	130.6%	48.7%
平成14年	77.6	68.7	133.6	150.7	319.0	182.8	254.4	128.0	89.6	81.9	69.5	104.8	1,660.6
(平年比)	117.3%	78.1%	99.2%	98.6%	175.8%	44.3%	57.2%	55.0%	44.5%	83.5%	80.2%	160.1%	76.7%
平成22年	63.3	111.1	194.9	262.0	242.0	347.4	509.3	125.8	158.8	80.6	33.2	114.9	2,243.3
(平年比)	95.7%	126.4%	144.7%	171.4%	133.4%	84.2%	114.4%	54.1%	78.9%	82.2%	38.3%	175.6%	103.6%
平成23年	34.5	64.3	67.7	76.0	324.2	695.3	302.4	309.9	186.8	144.3	171.1	42.3	2,418.8
(平年比)	52.2%	73.1%	50.2%	49.7%	178.7%	168.6%	67.9%	133.2%	92.8%	147.2%	197.5%	64.6%	111.7%
平成30年	73.9	54.0	180.6	154.6	197.1	368.4	528.1	65.2	327.3	65.6	46.1	74.7	2,135.6
(平年比)	111.7%	61.4%	134.0%	101.1%	108.6%	89.3%	118.6%	28.0%	162.6%	66.9%	53.2%	114.1%	98.7%
令和元年	47.6	114.2	129.2	104.7	51.5	182.8	469.5	523.7	129.1	76.0	30.5	105.2	1,964.0
(平年比)	72.0%	129.9%	95.9%	68.5%	28.4%	44.3%	105.5%	225.1%	64.1%	77.5%	35.2%	160.7%	90.7%
令和5年	78.4	77.0	123.7	187.1	310.3	436.4	735.3	182.3	53.3	30.6	43.8	46.3	2,304.5
(平年比)	118.5%	87.6%	91.8%	122.4%	171.0%	105.8%	165.2%	78.4%	26.5%	31.2%	50.6%	70.7%	106.5%
令和6年	46.1	39.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.6
(平年比)	69.7%	44.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%

※平年値は、1991～2020年(30年間)の平均値、平均値は2014～2023(直近10年)の平均値 ※九州地方整備局調べ

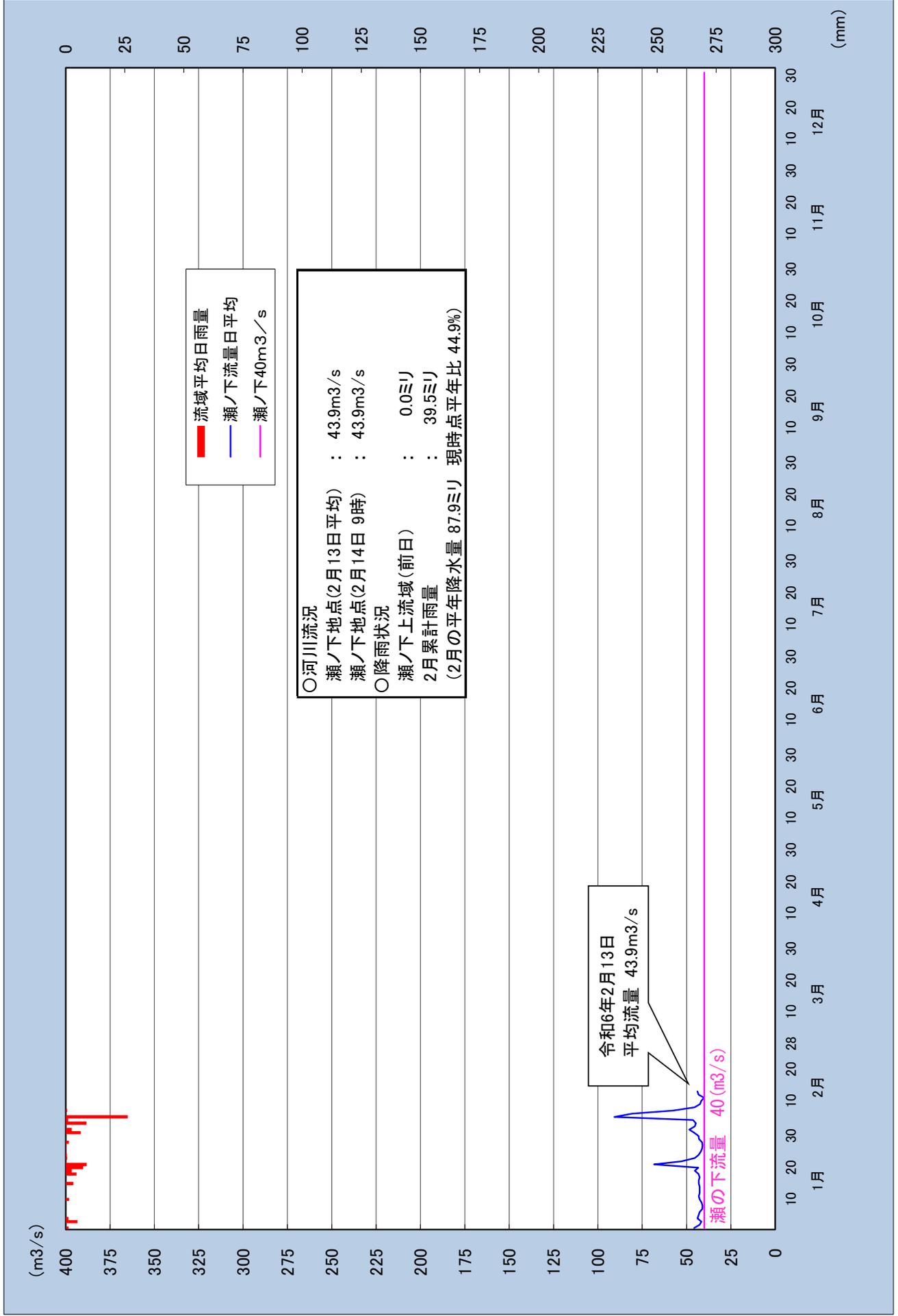


単位：ミリ

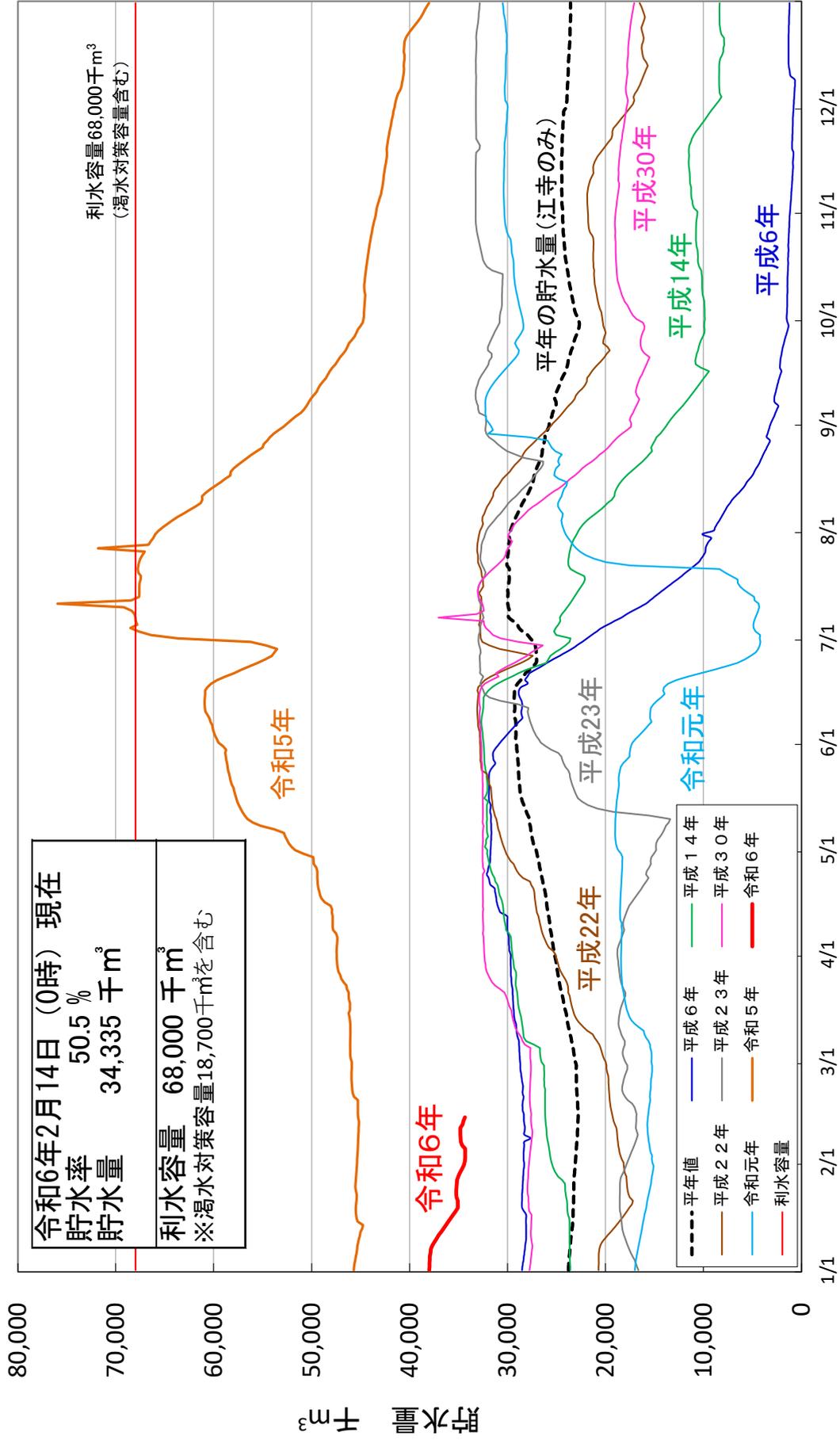
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平年値	66.2	154.1	288.8	441.7	623.1	1,035.6	1,480.7	1,713.3	1,914.7	2,012.7	2,099.3	2,164.8	2,164.8
平均値	70.5	148.3	272.6	428.8	612.0	966.0	1,464.9	1,767.6	1,988.6	2,096.6	2,165.6	2,228.2	2,228.2
昭和53年	68.0	144.9	223.8	338.9	407.1	730.3	832.3	984.6	1,134.7	1,218.7	1,274.3	1,331.7	1,331.7
(平年比)	102.8%	94.1%	77.5%	76.7%	65.3%	70.5%	56.2%	57.5%	59.3%	60.6%	60.7%	61.5%	61.5%
平成6年	56.6	132.0	200.5	389.2	462.0	682.3	740.6	822.7	908.9	935.2	969.5	1,055.0	1,055.0
(平年比)	85.6%	85.7%	69.4%	88.1%	74.1%	65.9%	50.0%	48.0%	47.5%	46.5%	46.2%	48.7%	48.7%
平成14年	77.6	146.3	279.9	430.6	749.6	932.4	1,186.8	1,314.8	1,404.4	1,486.3	1,555.8	1,660.6	1,660.6
(平年比)	117.3%	95.0%	96.9%	97.5%	120.3%	90.0%	80.1%	76.7%	73.3%	73.8%	74.1%	76.7%	76.7%
平成22年	63.3	174.4	369.3	631.3	873.3	1,220.7	1,730.0	1,855.8	2,014.6	2,095.2	2,128.4	2,243.3	2,243.3
(平年比)	95.7%	113.2%	127.9%	142.9%	140.1%	117.9%	116.8%	108.3%	105.2%	104.1%	101.4%	103.6%	103.6%
平成23年	34.5	98.8	166.5	242.5	566.7	1,262.0	1,564.4	1,874.3	2,061.1	2,205.4	2,376.5	2,418.8	2,418.8
(平年比)	52.2%	64.1%	57.7%	54.9%	90.9%	121.9%	105.7%	109.4%	107.6%	109.6%	113.2%	111.7%	111.7%
平成30年	73.9	127.9	308.5	463.1	660.2	1,028.6	1,556.7	1,621.9	1,949.2	2,014.8	2,060.9	2,135.6	2,135.6
(平年比)	111.7%	83.0%	106.8%	104.9%	105.9%	99.3%	105.1%	94.7%	101.8%	100.1%	98.2%	98.7%	98.7%
令和元年	47.6	161.8	291.0	395.7	447.2	630.0	1,099.5	1,623.2	1,752.3	1,828.3	1,858.8	1,964.0	1,964.0
(平年比)	72.0%	105.0%	100.8%	89.6%	71.8%	60.8%	74.3%	94.7%	91.5%	90.8%	88.5%	90.7%	90.7%
令和5年	78.4	155.4	279.1	466.2	776.5	1,212.9	1,948.2	2,130.5	2,183.8	2,214.4	2,258.2	2,304.5	2,304.5
(平年比)	118.5%	100.9%	96.6%	105.6%	124.6%	117.1%	131.6%	124.3%	114.1%	110.0%	107.6%	106.5%	106.5%
令和6年	46.1	85.6	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	85.6
(平年比)	69.7%	55.6%	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	4.0%

※平年値は、1991～2020年(30年間)の平均値、平均値は2014～2023(直近10年)の平均値 ※九州地方整備局調べ

# 瀬ノ下日平均流量・瀬ノ下上流域平均雨量(速報値)



### 3ダム(江川・寺内・小石原川)ダム貯水量経年変化図



※平年値は、1991～2020年(30年間)の平均値(江川・寺内ダムのみ)  
※令和2年1月1日からは小石原川ダムを含めたデータとしている。

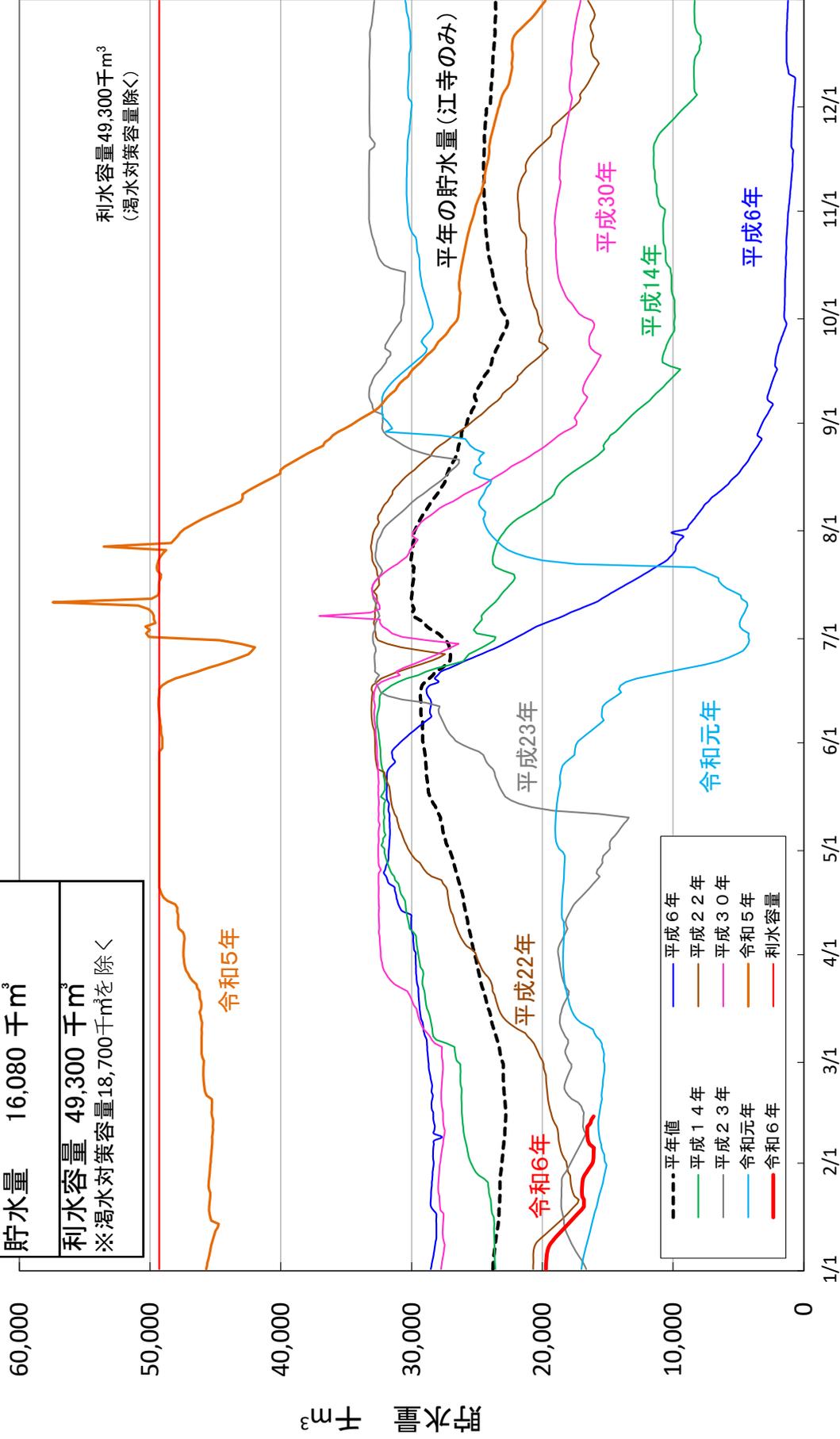
### 3ダム(江川・寺内・小石原川)ダム貯水量経年変化図

令和6年2月14日(0時) 現在

貯水率 32.6 %  
貯水量 16,080 千<sup>3</sup>m

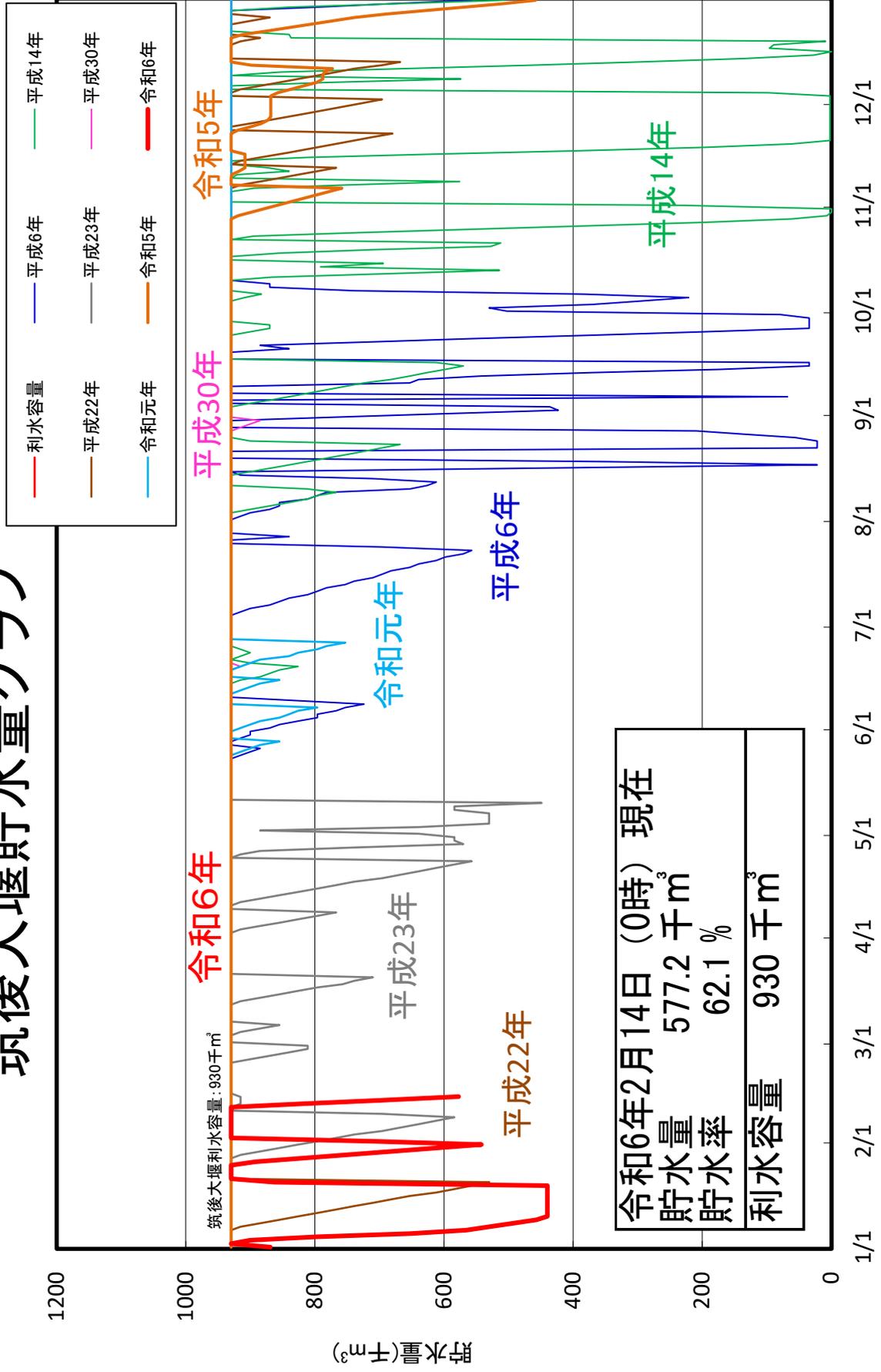
利水容量 49,300 千<sup>3</sup>m  
※ 濁水対策容量18,700千<sup>3</sup>mを除く

利水容量49,300千<sup>3</sup>m  
(濁水対策容量除く)

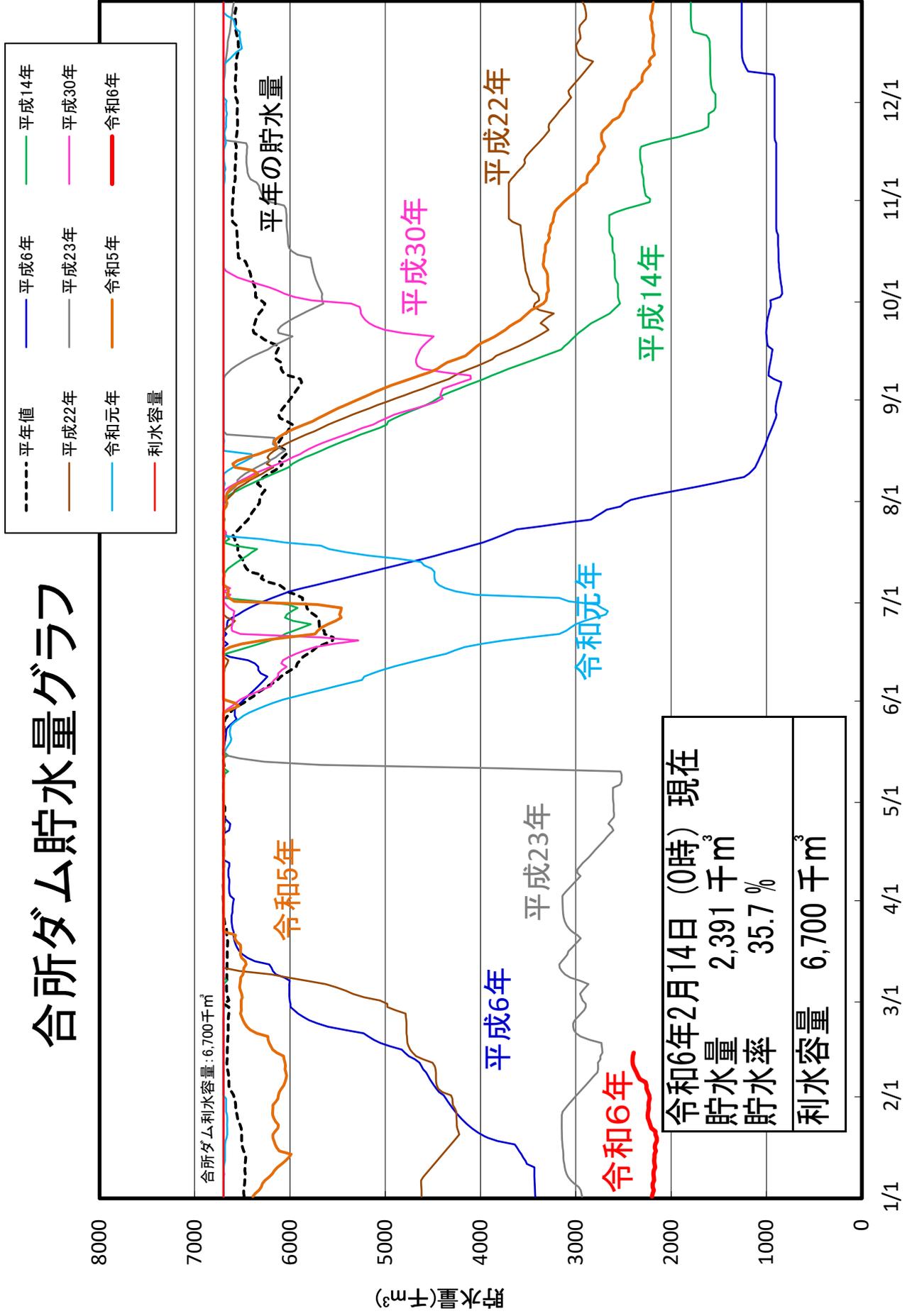


※ 平均値は、1991～2020年(30年間)の平均値(江川・寺内ダムのみ)  
※ 令和2年1月1日からは小石原川ダムを含めたデータとしている。

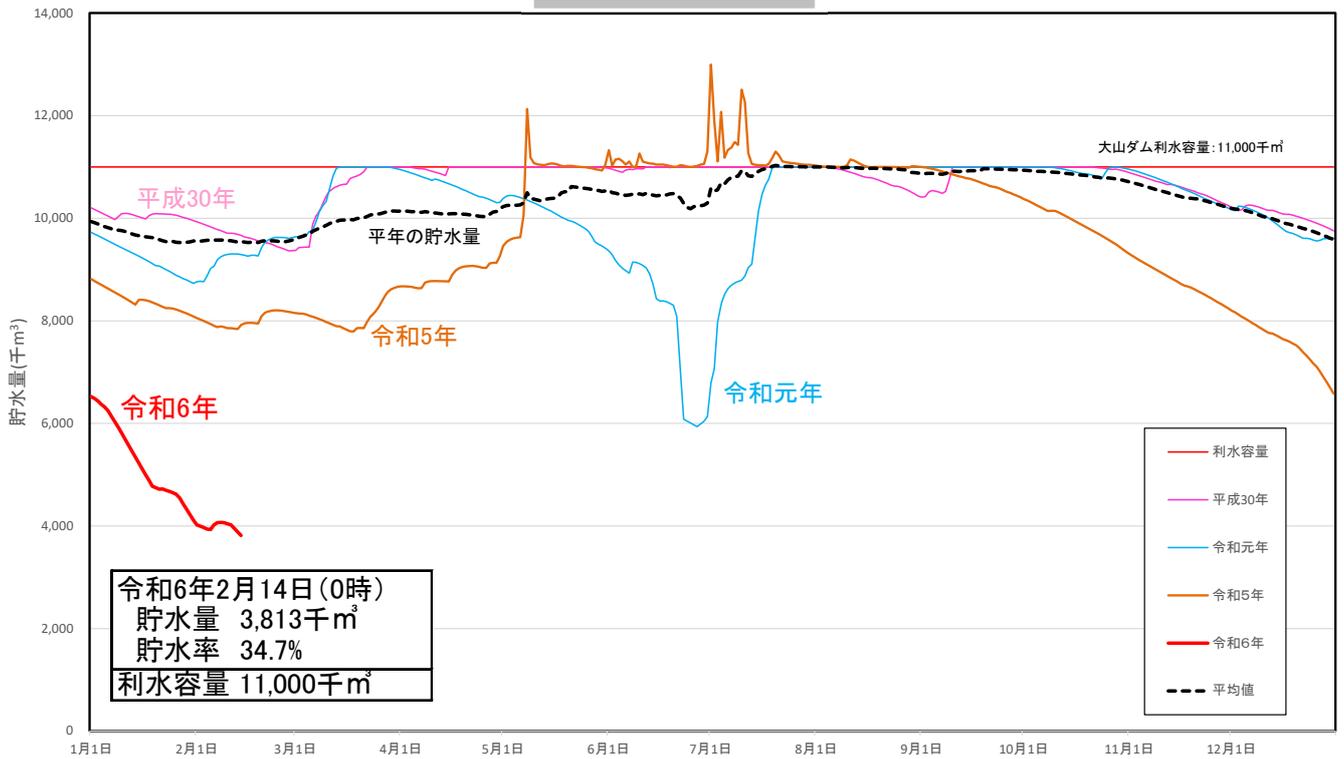
# 筑後大堰貯水量グラフ



# 合所ダム貯水量グラフ

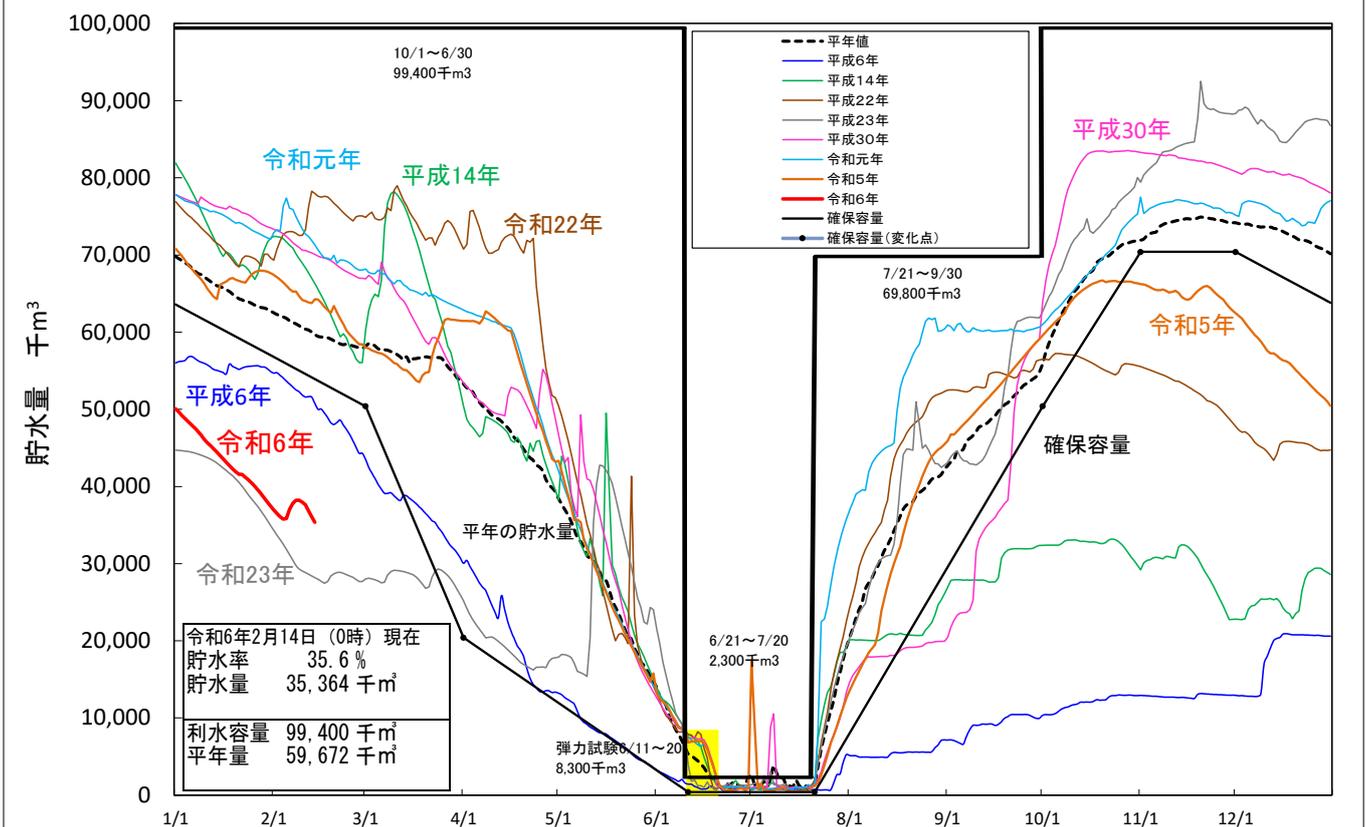


### 大山ダム貯水量グラフ



※平均値は、10か年 (H26~R5) の平均の値

### 松原・下笠ダム貯水量経年変化図



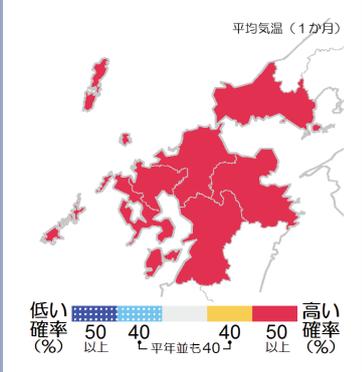
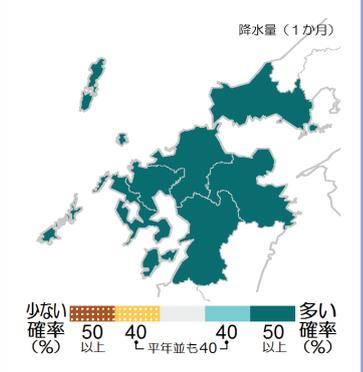
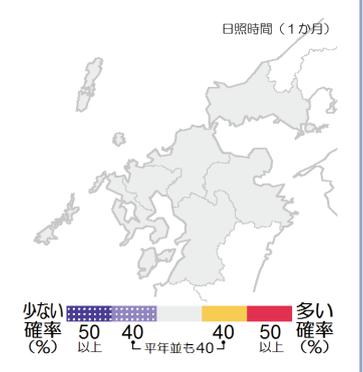
※平年値は、1991~2020年(30年間)の平均値

## 向こう1か月の天候の見通し 九州北部地方（山口県含む）（02/17～03/16）

### 予報のポイント

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気が流れ込みやすい時期があるため高いでしょう。特に1週目はかなり高くなる見込みですが、2週目は寒気の影響で低くなり、気温の変動が大きいでしょう。
- 1週目を中心に低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多い見込みです。
- 向こう1か月の日照時間は、ほぼ平年並となるでしょう。

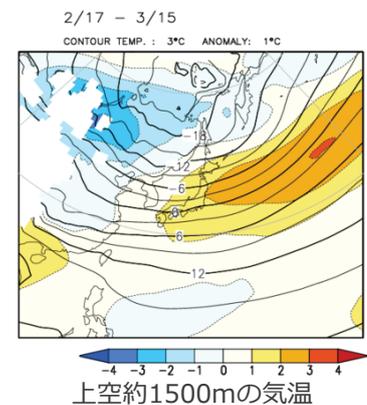
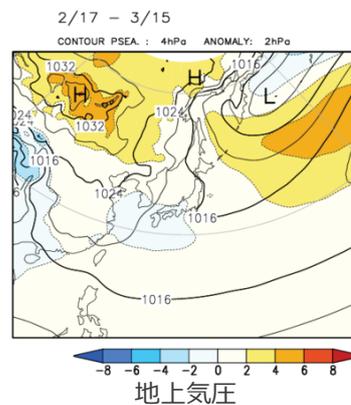
### 1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低20 並30 高50% <b>高い見込み</b>	少20 並30 多50% <b>多い見込み</b>	少40 並30 多30% <b>ほぼ平年並の見込み</b>
数値は予想される出現確率（%）です	 <p>平均気温（1か月）</p> <p>低い確率（%） 50 40 40 50 高い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>	 <p>降水量（1か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>	 <p>日照時間（1か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>

### 数値予報モデルによる予測結果

1か月平均の地上気圧（左図）は、中国大陸から西日本付近にかけて平年より低いと予測されており、九州付近を中心に低気圧などの影響を受けやすいでしょう。

上空約1500mの気温（右図）は、本州付近を中心に平年より高いと予測されており、九州北部地方では、1週目を中心に南からの暖かい空気が流れ込みやすい見込みです。



季節予報では、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用します（アンサンブル予報）。多数の結果の平均（上図など）から大気の状態を判断し、また結果のパラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します。

	平均気温（1週目） 02/17~02/23	平均気温（2週目） 02/24~03/01	平均気温（3~4週目） 03/02~03/15
週別の天候	期間のはじめは高気圧に覆われて晴れる日もありますが、その後は低気圧や前線の影響を受けやすいため、曇りや雨となるでしょう。	天気は数日の周期で変わってでしょう。	天気は数日の周期で変わってでしょう。
九州北部地方（山口県含む）	低10 並10 高80% <b>高い見込み</b>	低50 並30 高20% <b>低い見込み</b>	低30 並30 高40% <b>ほぼ平年並の見込み</b>
数値は予想される出現確率（%）です	<p>平均気温（1週目）</p> <p>低い確率(%) 50 40 40 50 高い確率(%) ↑ 平年並も40% ↑</p>	<p>平均気温（2週目）</p> <p>低い確率(%) 50 40 40 50 高い確率(%) ↑ 平年並も40% ↑</p>	<p>平均気温（3~4週目）</p> <p>低い確率(%) 50 40 40 50 高い確率(%) ↑ 平年並も40% ↑</p>

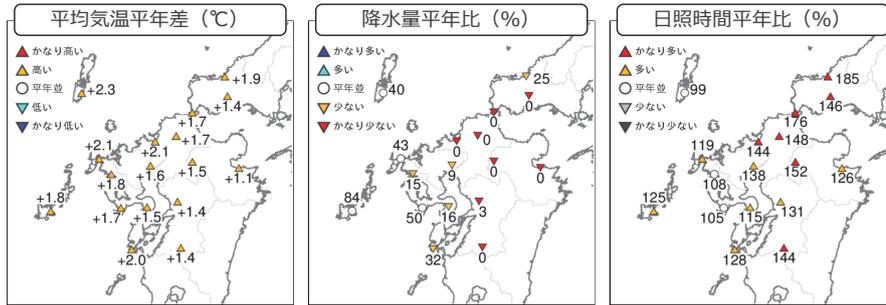
明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報 (<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>) を参照してください。

季節予報は、予測の確かさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。

「平年並」がどの程度の値になるのかについては、参考資料 (<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/kyuhoku1.html>) をご覧ください。

文章による解説については、確率の大きさに応じた言葉で表現しています。詳しくは本資料末尾の「参考（[確率予報の解説](#)）」をご覧ください。

最近1週間の天候経過



(実況) 02/08~02/14	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
九州北部地方（山口県含む）	+1.7℃（高い）	19%（少ない）	135%（多い）

参考

確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解説
高い（多い） 確率が50%以上	高い（多い）見込み
(20 : 40 : 40)	平年並か高い（多い）見込み
平年並の確率が50%以上	平年並の見込み
(40 : 30 : 30) (30 : 40 : 30) (30 : 30 : 40)	ほぼ平年並の見込み
(40 : 40 : 20)	平年並か低い（少ない）見込み
低い（少ない） 確率が50%以上	低い（少ない）見込み